

TCU Quarterly

—都市大だより—

2022.OCT.

No.224

2022年10月28日発行

東京都市大学 学長室(広報担当)

東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104 <https://www.tcu.ac.jp>

特集

デザイン・データ科学部を 横浜キャンパスに開設

2023年4月

東京都市大学横浜キャンパスに開設

Design & Data Science

デザイン・データ科学部

デザイン・データ科学科

CONTENTS

- 02 特集 デザイン・データ科学部を横浜キャンパスに開設
- 04 今どきのインターンシップ事情
- 06 2年ぶりとなる「東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」生が出発!! 派遣学生社行会および留学準備研修会を開催
- 07 滝久雄様へ感謝状を贈呈
- 08 体育祭 2022
- 09 第26回 横浜祭
- 10 学生と大学との懇談会
- 11 2022年度 五島育英基金奨学金
- 12 2023年度 入学試験概要
- 16 2022年度 競争的研究費一覧
- 17 2022年度 文部科学省科学研究費助成事業交付一覧
- 20 財務情報の公開
- 24 2022年度 学生団体
- 25 課外活動
- 26 NEWSラウンジ/夢キャン通信
- 27 Information (東京都市大学 世田谷祭 / 東京都市大学YCチャリティフェス)



全学生がデータサイエンスの基礎を学ぶ本学に、
2023年4月、確かな分析力と創造力を兼ね備えたイノベーション人材を育成する

デザイン・データ科学部を 横浜キャンパスに開設

▲ このタイトル背景は、学生の多様性を尊重し、文理横断的なシナジー効果を期待して表現しています。

2023年4月、文理融合の文化が息づく横浜キャンパスに、新学部を開設します。
開設に携わってきた、キャンパス連携担当の副学長 関 良明教授に
開設の経緯や教育方針、特色ある学びについて伺いました。

副学長(キャンパス連携担当) 関 良明教授



1985年、日本電信電話株式会社入社。NTTマルチメディアネットワーク研究所主任研究員、東日本電信電話株式会社研究開発センタ担当課長、NTT情報流通プラットフォーム研究所主任研究員、電気通信大学大学院情報システム学研究科客員准教授(兼務)、NTTセキュアプラットフォーム研究所主任研究員などを経て、2014年東京都市大学メディア情報学部情報システム学科教授に就任。2018年から2020年メディア情報学部長。2001年博士(情報科学・東北大学)。

「分析力×創造力=イノベーション力」を養い、 社会が真に求める人材を輩出するために開設

— 学部開設までの経緯をお聞かせください。

約4年前から、急激に変化する現代社会で求められる人材を育成するための学部・学科の開設を目指してきました。予測不可能な時代と言われる今、従来の視点や方法論から脱却して、新しい価値を持った「もの(製品・メディア・空間など)」や「こと(サービス・社会経済システム・ビジネスモデルなど)」をデザインすることのできる人材、つまり「イノベーション人材」が求められています。革新的な「もの」や「こと」の創出には、膨大なデータを正しく解釈する論理的な思考と、同時にそのデータを鵜呑みにしない、批判的な思考が必要です。もちろん、世界中に発信する「グローバルな感覚」や「マネジメント力」も求められます。つまり文系・理系の枠にとらわれることのない多様な素養が不可欠なのです。

新しく開設するデザイン・データ科学部は、文系・理系を問わず、確かな分析力と創造力を兼ね備えた「イノベーション人材」を育成するため、文理融合の文化が息づく横浜キャンパスに開設することとしました。「デザイン・データ科学部」という名称には、普遍的な「データ科学」の知識と技術に基づき、新たな「もの」と「こと」を「デザイン」という意味が込められています。

本学部で
身につく力



— 教育方針やカリキュラムについて教えてください。

数値に基づく定量面での知識・技術はもちろん、数値化できないものごとの質をも分析できる、論理的思考力と批判的な思考力を持つ人材を育てます。さらに、グローバルリテラシーの修得により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力も身につけてもらいます。その上で、実社会におけるさまざまな課題を解決するため、新たな価値を持つ「もの」と「こと」を具体的に構想・設計・構築、つまりデザインする実践的な専門力を養います。

本学部の人材育成方針は、カリキュラムに表れています。新入生が最初に取り組むのは、データ科学および外国語・国際教養科目を修得することによる「基盤力」の強化です。まずはデータ科学科目で、「もの」や「こと」を分析的に見て適切に処理し、解釈する能力を養い、併せて外国語・国際教養科目で国際的なコミュニケーション力を高めます。3・4年次には、ユーザー・エクスペリエンス・デザイン(UXD)科目とソーシャル・システム・デザイン(SSD)科目で、「もの」や「こと」に関する専門性を高めます。UXDでは、「もの」と「こと」をデザインする力、SSDではマネジメントする力を養います。こうして4年間で、データ科学力と国際コミュニケーション力、デザイン力、マネジメント力を段階的かつ実践的に身につけます。



海外留学、COOPプログラムなど特色ある学びを用意し、 大学院への進学も積極的に支援

— 特色ある学びとは、どのようなものですか？

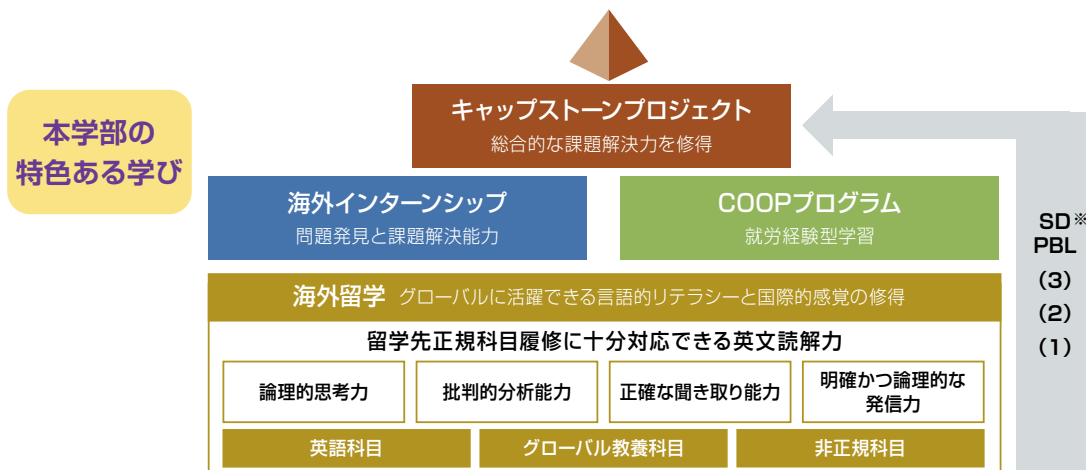
デザイン・データ科学部の入学定員は100人です。その全員が、原則として、東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)による海外留学を体験する予定です。学部生全員が留学プログラムに参加するのは、本学では初めてのことです。さらには、その後の海外インターンシップへの参加も積極的に支援します。

COOPプログラムとキャップストーン*プロジェクトも学びの大きな特色です。COOPプログラムは、授業と就労体験を組み合わせた教育プログラムで、一定期間企業等で就労体験を積み、実践力や社会人としての基礎力を身につけます。キャップストーンプロジェクトは、企業や組織が抱えるさまざまな課題をチーム体制で解決していく、従来の卒業研究に代わる学びの総仕上げです。

こうした学びで得られた課題解決力をさらに伸ばすため、大学院への進学を推奨しています。成績優秀者は、学部4年次から大学院の科目を履修できるようにし、通常最短2年かかる修士課程を1年で修了できる仕組みも構築する予定です。

このデザイン・データ科学部で、多彩な教員とともに、自分の夢を「デザイン」できる「イノベーション人材」が数多く巣立ってくれることを期待しています。

*キャップストーンとはピラミッドの先端の石のこと。



※SD PBL=Sustainable Development Project organized Problem Based Learning :
持続可能な社会の発展に資する人材育成に向けた本学独自の問題解決型科目

詳細は、
こちらよりご覧
いただけます





今どきの インターンシップ事情

学生支援部 キャリア支援センター 係長 志藤 圭

【はじめに】

昨今の就職活動は、折からの早期化に加え、コロナ禍の行動制限を受けてオンライン化が急速に浸透したほか、企業からのオファー型採用や、職務を予め明示したジョブ型雇用といった新たな形態の登場もあいまって、多様化が進んでいます。特にインターンシップ^(※1)については、その実施期間や内容が企業により千差万別で、学生や保証人の皆さまにとっても、そのイメージするところは様々であると思われます。本稿ではインターンシップに関する政府・大学・企業による現状の協議内容の整理を行ったうえで、本学のインターンシップへの対応をご紹介します。

【昨今の動向】

我が国におけるインターンシップに関する基本的認識や推進方策を取りまとめた「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省合意、いわゆる三省合意)が、経団連と大学の代表で構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の2021年度報告書の内容を踏まえ、本年6月13日付けで改正されました。これまで政府は、「採用活動前のインターンシップの情報は採用活動に活用できない」という方針を示していましたが、本改正で、採用活動前のインターンシップで企業が得た学生の評価等の情報を、一定の要件^(※2)を満たすことで採用活動に活用することが可能となりました。対象となるインターンシップは、学生のキャリア形成支援プログラムに係る次の4類型のうち、**タイプ3**及び**タイプ4**(右頁【図】参照)です。

社会人のキャリア形成においても「自律性」の要素が今後ますます求められていく中で、キャリア形成支援に係る4類型の意義は、「自律的なキャリア形成へのトレーニング」と位置付けられます。

他方で、インターンシップ等からの早期選考など、政府要請の「就活日程ルール^(※3)」が形骸化しつつある現状も踏まえると、例えばプログラムに参加した学生情報の取り扱いについて、「タイプ1・2は活用不可」としている点の実効性に対する疑問は、当然指摘されるものの、政府としては、単に現状を追認するのではなく、キャリア形成支援の新たな枠組みを示し、これを推進したいという意味合いのメッセージを発信したと捉えられ、この点については、今後も注視していく必要があると考えます。

※1 【インターンシップの定義】学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか(自らがその仕事で通用するかどうか)を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験(企業の実務を体験すること)を行う活動。(但し、学生の学修段階に応じて具体的内容は異なる) 出典:採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書(概要)

※2 就業体験要件(必ず就業体験を行う。インターンシップ実施期間の半分以上の日数を職場での就業体験に充てる)や、実施期間要件(インターンシップの実施期間は、汎用的能力活用型では5日間以上、専門能力活用型では2週間以上)等があり、要件を満たしたプログラムで取得した学生情報については、3月以降は広報活動に、6月以降は採用選考活動に使用可

学生のキャリア形成支援における産学協働の取組み【全体像】

- 以下の4タイプの多種多様なプログラムの実施を通じて、学生のキャリア形成を産学協働で支援。いずれも学生の参加は任意。
- **タイプ3ならびにタイプ4が「インターンシップ」に該当する活動。**

類 型	タイプ1 オープン・カンパニー ※オープン・キャンパスの企業・業界・仕事版を想定		
対 象	学部生・大学院生向け(学年を問わず)		
主たる目的	学 生	企業・業界・仕事を具体的に知る	
	大学企業	企業・業界・仕事への理解促進	

類 型	タイプ2 キャリア教育 (プレ・インターンシップを含む)	タイプ3 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ	タイプ4(試行) 高度専門型インターンシップ ※試行結果を踏まえ、今後判断
対 象	学部生(主に低学年)向け	学部生(主に高学年)・大学院生向け	大学院生向け
主たる目的	学 生	自らのキャリア (職業観・就業観)を考える	その仕事に就く能力が 自らに備わっているか見極める
	大学企業	能力開発／キャリア教育	マッチング精度向上／採用選考を 視野に入れた評価材料の取得
			自らの専門性を実践で活かし、 向上させる(実践研究の向上)
			今後拡大が見込まれる ジョブ型採用を見据えた 産学連携の大学院教育

【図】学生のキャリア形成支援に係る産学共同の取組みの4類型 出典:採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書(概要)

【本学におけるインターンシップへの対応】

本学では、前段で指摘されるような早期化が助長される動きを懸念する一方で、低学年次から自身の専攻する学問分野の社会的な意義やその学びが社会課題の解決にどのようにつながるかを考える機会になることは望ましいと考えています。そうした考えから2020年度以降全学科で実施のSD PBL^(※4)などは、実社会で活躍する方を講師として招くなど、社会との接点を意識した課題解決型の授業であり、上述の報告書でも指摘されている、学生に望まれるキャリア形成の取組みを先んじて取り入れたものであるといえます。

また本学では、タイプに関わらず、キャリア形成の支援に際しては学びのモチベーションを高める契機としてのプログラムであることが本質的に重要なことと捉えており、民間企業や自治体主催のインターンシップに加え、独自のプログラムとして東急グループ企業や海外でのインターンシップを展開しています。併せて、**タイプ4**に位置付けられる高度専門型プログラムの試行的取組みを進めるジョブ型研究インターンシップ推進協議会にも参画しており、さまざまな面から積極的に学びの機会を提供できるよう全学で連携しています。

本学のキャリア支援センターでは、キャリア形成の国家資格「キャリアコンサルタント」を持つ職員を窓口にて、学生の支援にあたっています。わからないことや迷いが生じた際には、ぜひ、各キャンパスのキャリア支援センターを訪ねるよう、お伝えください。

※3 広報活動を卒業・修了年度に入る直前の3月以降、採用選考活動を卒業・修了年度の6月以降、内定を同じく10月以降とする関係省庁による経済団体等への要請日程

※4 SD(Sustainable Development)とPBL(Project/Problem-Based Learning)を組み合わせた、本学独自の持続可能な社会発展に貢献する人材を育成する課題解決型科目



開催日 2022年7月23日(土)

場所 世田谷キャンパス 7号館

東京都市大学オーストラリアプログラム(以下、TAP)は、1年次からの準備教育と2年次の約4カ月間の留学を合わせた2年に亘る本学独自の国際人教育プログラムです。

2015年度のスタートから、オーストラリアのエディスコワン大学やマードック大学に学生を派遣してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年以降は一時中断していました。約2年ぶりとなる今回の派遣には、TAP2019サイクルB、TAP2020サイクルA・B、TAP2021サイクルA・Bの学生237名が参加します。

なお、会の当日は、感染症拡大防止の観点から会場にいらなかった学生や保護者の皆様には、ライブ配信によりご視聴いただきました。

壮行会は三木学長の挨拶から始まり、参加した学生に向けて「TAPは実践的専門知識を持ち、グローバルに活躍できる人材への第一歩となります。充実した海外生活を送るためには、多くの人と積極的に交流することです。パスでの勉強が実りあるものになることを祈念しています」との言葉が贈られました。続いて、来賓としてご列席いただいた駐日オーストラリア臨時代理大使Peter Roberts氏より「東京都市大学の国際

交流への取り組みと、オーストラリアの優れた教育機関との提携に祝意を表します。皆さんには、この機会を最大限に活用してほしいと思います。学び、成長し、新しい世界観を持ち帰ってください」との祝辞を頂戴しました。また、参加学生を代表して、人間科学部 児童学科2年の福井彩月さんが「この留学で英語力を向上させ、自信をもって英語で意見ができるようにしたいです」と決意表明のスピーチを行いました。

続いて行われた留学準備研修会では、前・駐オーストラリア大使である本学国際センターの草賀純男特別教授と同センターの大田孝治特任講師による「海外安全管理」と、共通教育部の岩嶋孝夫准教授による「アルコールに関する正しい知識」の講演を行いました。

さらに、本プログラムの実施をサポートしていただいている株式会社JTB様と本学国際支援センターから、渡航に関する説明があり、参加した学生は熱心に耳を傾けていました。

今回参加する237名のうち、8月4日(木)に85名がエディスコワン大学とマードック大学へ、5日(金)に81名がマードック大学へ、6日(土)に71名がエディスコワン大学へ向けて飛び立ちました。



三木学長による挨拶



駐日オーストラリア臨時代理大使Peter Roberts氏による祝辞



人間科学部 児童学科2年の福井彩月さんによるスピーチ



本学国際センターの草賀純男特別教授による講演



同センター大田孝治特任講師による講演



共通教育部の岩嶋孝夫准教授による講演



滝久雄様へ感謝状盾を贈呈

開催日：2022年7月21日(木) 場所：世田谷キャンパス 7号館

2022年7月21日(木)、本学の教育・研究環境の更なる充実支援として、多額の寄附をいただきました株式会社NKB取締役会長・創業者の滝久雄様と関係者様を、本学世田谷キャンパス新7号館にお迎えし、本学を運営する学校法人五島育英会会泉康幸理事長より感謝状盾を贈呈しました。

2022年1月に竣工した同館の2階『Taki Global Floor』は、「留学生と日本人学生のよき交流を願う」滝様の篤志により誕生したもので、本学におけるグローバル教育の中心となる国際フロアと位置付けております。

当日の懇談の中で、本学三木千壽学長は感謝と共に「国内外の学生の交流と本学そして我が国の一層の国際化に向け、大いに活用させていただきます」との決意を伝え、滝様からは「今後のアジアを中心とした国際交流の要となるような人材の輩出を期待しています」とのエールが送られました。

その後のフロア見学に続いて行われた留学生ら10名との歓談では、滝様と一人ひとりの学生が、彼女、彼らの母国にまつわるエピソードなどを交えてお話しされ、滝様には学生からの質問に丁寧にお答えいただきました。また会の終盤には、参加した学生に向けて「他人の価値観を認めて、お互いに尊重しあう気持ちが大切です。そのうえでお互いに自分の意見をどんどん言い合うことで物事は前進し、より良いものを作り上げることができます」とのメッセージも送られました。

本学では、今後も滝様のご期待にお応えするべく、引き続き良質な教育・研究環境を整え、実践力を有するグローバル人材の育成に邁進してまいります。



『Taki Global Floor』見学の様子



学生からの花束贈呈の様子



学生との歓談の様子



感謝状盾贈呈の様子(右から、滝様、泉理事長、三木学長)

SPORTS FESTIVAL

体育祭 2022

開催日 | 2022年5月4日(水)・5日(木)
場所 | 世田谷キャンパス／横浜キャンパス



体育祭は、本学体育会の学生が中心となって運営するもので、参加する学生たちが各種競技を通じて一体感を高める貴重な機会となっています。過去2年間は、コロナ禍により中止を余儀なくされたことで、体育祭の運営経験がない学生スタッフたちでしたが、試行錯誤を重ねながら、企画・ルール作り、チーム分け、スケジュール調整、感染症対策などに全力を注ぎながら開催の準備を進めてきました。

開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、開催式は対面を控え、オンライン配信で実施、参加者には健康状態を確認する「健康チェックシート」の提出を義務付けるなどの対策を講じました。

開催式では、三木千壽学長より「コロナ禍の影響で、3年ぶりの開催となる今大会は、より多くの人とつながりをもっといただくため、初めて学科対抗の形式としました。学科内の絆を深め、競技が大いに盛り上がり、親睦が深まることを期待しています」と激励のメッセージがありました。

両日とも真夏を思わせる晴天に恵まれ、リレー(世田谷キャンパスのみ)、フットサル、ドッジボール、綱引き、大縄跳び(横浜キャンパスは縄跳び)、フリースローの各競技で、熱戦が繰り広げられました。

世田谷・河川敷で行ったドッジボールの参加者は、「しばらく思い切り体を動かすことがなかったので、とても嬉しい。学科の友達との関係も強まった」と感想を述べ、体育館で行われたフリースローで優勝した機械工学科・情報工学科の混成チームの一人は、「優勝できたこと以上に、みんなで応援したり、一緒に戦えたことが楽しかった。ぜひ来年も参加したい」と弾む声で話しました。

また、フットサルの運営を行った体育会の学生は、「人数や時間の調整などで反省すべき点はあったが、この経験を次につなげて、よりよい体育会にしたい」と笑顔で語りました。

2日間で約600人の学生が参加した今回の体育祭は、競技を通じた親交を深め、互いの健闘を称えあって、盛況のうちに幕を閉じました。



リレー(世田谷キャンパス)



フットサル



フリースロー



大縄跳び



綱引き



ドッジボール



受付

第26回 東京都市大学 横浜祭

テーマ Sparkle



開催日 2022年6月11日(土)・12日(日) 場所 横浜キャンパス

第26回のテーマである「Sparkle」には「煌めき、輝き」などの意味があり、そこにはコロナ禍によって失われたキャンパスでの学生の輝きを取り戻し、明るく煌めいた横浜祭を作り上げたい、梅雨を吹き飛ばして爽やかに弾きたいという思いが込められています。

今年度の横浜祭は、来場型とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式での開催となり、キャンパスに来場者を迎えるのは3年ぶりとなりました。来場された方には検温やアルコール消毒の他、飲食エリアの制限、ソーシャルディスタンスの確保などの感染防止対策にご協力いただきました。

開祭式では、三木千壽学長が「リアルでなければ伝わらない、伝えられないこともある。しかし、同時に多くの方に届けることができるオンラインの強みもある」と話し、ハイブリッド形式がもたらすシナジー効果に期待を寄せました。つぎに学生部長の飯島正徳教授が「試行錯誤と努力を重ねた新しい試みの学園祭。新しいイベントが多数あり、みんなで楽しめ、記憶に残る学園祭になってほしい」と期待を述べ、メディア情報学部長の岩野公司教授は、横浜キャンパスの教職員を代表し「3年ぶりにキャンパスへご来場いただく形での開催が叶い、大変うれしく思う」と喜びを語りました。最後に、横浜祭実行委員長の井上優太さんが「この2日間、学生が輝くさまざまな企画が目白押しです。学生の輝きを横浜祭を通して感じてください」と話し、開祭宣言が行われました。

メインステージでは、学生が本学の魅力を語りつくすトークショーや3名の教授による討論会「教授達が徹底討論!?としとーろん!!」などを実施。サブステージでは、参加団体によるコンサートやダンス、都市大等々力中高校太鼓部のパフォーマンスなども繰り広げられ、ライブならではの盛り上がりを見せました。

また、エコをテーマにしたSNS連動の写真展「エコ映えコンテスト」や「カーボンオフセット」「ウォーターフットプリント」といった環境への取り組みを紹介するとともに、地域と連携した交流企画「ポッチャ交流会」や「ピアノ演奏」なども行われ、会場は大いに賑わいました。

両日、食堂では「Sparkle」のテーマに合う都市大サイダーも発売。初夏を感じさせる、口の中で弾ける爽やかな味わいが横浜祭を彩りました。

ハイブリッド形式の学園祭は、学生にとってこれまでに経験のない大きな挑戦でしたが、今までにない、新しい学園祭の姿を作り上げることができました。



横浜祭実行委員会



横浜祭実行委員長 井上優太さんの開祭宣言



学団連トークショー



討論会「教授達が徹底討論!?としとーろん!!」



東京都市大学等々力中学校高等学校 太鼓部



研究室展示



エコ映えコンテスト



ポッチャ交流会



ピアノ演奏

2年ぶりの対面形式による「学生と大学との懇談会」を、世田谷キャンパスで開催しました。学生23名、教職員83名、学内業者6名の計112名が参加し、「授業・研究」「課外活動」「その他、学生生活」について活発な意見交換を行いました。

開催日：2022年6月29日(水) 場所：世田谷キャンパス6号館

世田谷キャンパス

(1) 授業・研究について

学生側からの意見(以下、学生)→TAPの事前英語学習はスピーキングを中心とし、TOEIC®学習は学生各自に任せるべきでないか。
大学側からの回答(以下、大学)→昨年より、スピーキングを重要視し、毎年2回の「毎日学べる英会話」をクラス化している(国際支援センター)。**学生**→留学中に、資格試験に必要な授業が多く開講される。4年次に再履修できるが、単位を落すのではないかと危惧している。**大学**→帰国後に当該科目の集中講義を開講するなど、既に対策を講じている(都市生活学部長)。**学生**→1年次から各研究室の概要が常に分かるようにしてもらいたい。**大学**→学科ホームページをリニューアルし、各研究室の詳細情報を見られるようにしている(理工学部長)。毎年開催される「都市大研究プレゼンコンテスト」で各学科・専攻の学生が研究発表をしているので、参考にしてほしい(研究担当学部長)。**学生**→研究室で使用する薬品購入の際、承認までに時間がかかる。**大学**→以前にも承認時間がかかるという意見があり、承認ルートを変更して改善されている。今後も運用の改善を検討していく(管理課)。

(2) 課外活動について

学生→TCUラリーが、暑さを理由に中止の連絡を受けた。この時期に開催することが、問題ではないかと思う。すべてのイベントの開催時期を再考するべきではないか。**大学**→自分たちで開催時期を判断したり自分たちの力で変えたいという気持ちは、建学の精神「公正・自由・自治」にあたる素晴らしいものだ。学生が主体的に変えていくことを期待する(学生部長)。**学生**→卓球場が非常に暑い。**大学**→冷風機等の導入を検討している(管理課)。**学生**→横浜キャンパスのテニスコートに、日陰がない。暑さ対策として、スプリンクラーを設置できないか。**大学**→横浜の担当者と相談す



る(管理課)。**学生**→18号館の解体計画について話を聞いたが、本当か。**大学**→18号館は耐震補強をしているため、キャンパス再整備事業における解体の予定はない(管理課)。

(3) その他、学生生活について

学生→修士の修了要件の一つとして、TOEIC®スコアのクリアがあるが、大学側から受験料の支援がない。**大学**→非常に重要な話だと思う。国際部を中心に検討し、要望に応じていきたい(国際センター)。**学生**→成績照会システムを通年公開してほしい。**大学**→期間を区切って公開している理由を確認し、通年公開の方向で対応していきたい(教育支援部)。**学生**→新10号館に、新7号館1階のようなオープンスペースを用意してほしい。**大学**→新10号館の1~5階の中央部と各階の北側・南側の屋外にラウンジを設置する(総務部)。**学生**→等々力キャンパスの移転とコロナ禍の収束によって、食堂の混雑が予測されるが、対策はあるのか。**大学**→券売機の増設や食事の提供速度を上げたり、待ち時間を表示するなどの対策を講じている(学生支援センター)。**学生**→新7号館1階にあるナナカフェの営業時間を延長できないか。**大学**→利用状況やニーズなどを調査し、柔軟に検討したい(学生支援センター)。**学生**→新7号館の喫煙場所を変更する予定はないか。**大学**→すぐに代替場所を作るのは困難だが、環境保全委員会で状況を把握しながら検討したい(学生部長)。**学生**→喫煙者もマナーを守ってほしい(学生支援センター)。

● 学長の講評

今年は、会場でいろいろな学生側の意見を直接聞いて良かった。議題になったTAPやTOEIC®などは、あくまで手段であり、狙いは真の英語力を身につけること。学生の希望と実態を見ながら、今後のプログラムをどうすべきかを考えていきたい。

コロナ禍は3年目に入り、学生の学びが、きちんと身につけているかを一番心配している。大学としてはオンライン教育の限界がある中、できるだけ支援をしたいと思っている。しかし、学生自身が主体的に考えなければ課題は解決できない。要望があれば、このような懇談会や学長室へ意見を届けてほしい。

2022年度 五島育英基金奨学金

「2022年度五島育英基金奨学金」が、奨学生69名（うち女子29名）、部活動2団体に給費されました。

五島育英基金奨学金は、博士前期課程・学部2年次以上で学業成績・人物とも優秀な学生に対して学校法人五島育英会より給費される奨学金です。

五島育英基金部活動奨励金は、本学において、学生生徒の士気の高揚に著しく貢献する等、特に育成の必要ある部活動に対して給費される奨励金です。

給費生および団体は、次のとおりです。

奨学（計69名）

◎大学院総合理工学研究科博士前期課程（10名）

機械専攻	2年	佐藤 昂平
	2年	高木 凌
電気・化学専攻	2年	板山 千都世
	2年	大形 瑠
共同原子力専攻	2年	大原 光晴
自然科学専攻	2年	菅原 奏来
建築・都市専攻	2年	井川 直樹
	2年	富澤 幸久
情報専攻	2年	小澤 悠生
	2年	高山 康汰

◎工学部（9名）

機械工学科	4年	小門 達弥
機械システム工学科	4年	成田 遼太
電気電子通信工学科	4年	北井 智也
	4年	土田 彩加
医用工学科	4年	笠 ひかり
エネルギー化学科	4年	松本 悠作
原子力安全工学科	4年	篠原 知篤
建築学科	4年	濱田 夏帆
都市工学科	4年	水谷 昂太郎

◎理工学部（16名）

機械工学科	2年	横田 理音
	3年	藤原 大季
機械システム工学科	2年	望月 勇希
	3年	緒方 翔一
電気電子通信工学科	2年	大河原 史哉
	2年	村上 愛斗
	3年	中嶋 祐晴
	3年	平山 大夢
医用工学科	2年	川越 滉太
	3年	猪野 友汰
応用化学科	2年	渡邊 舞柚
エネルギー化学科	3年	早部 楓美奈
原子力安全工学科	2年	増本 蒼
	3年	渡辺 杏
自然科学科	2年	星 直人
	3年	金子 大輝

◎知識工学部（3名）

情報科学科	4年	天羽 未来
知能情報工学科	4年	高橋 知里
自然科学科	4年	原田 菜里

◎情報工学部（4名）

情報科学科	2年	今井 快
	3年	松下 実樹
知能情報工学科	2年	大澤 稜
	3年	外川 宙

◎建築都市デザイン学部（4名）

建築学科	2年	元木 秀麻
	3年	池田 公輔
都市工学科	2年	今村 公美
	3年	鈴木 翠

◎大学院環境情報学研究科博士前期課程（2名）

環境情報学専攻	2年	山根 拓海
都市生活学専攻	2年	今田 大登

◎環境学部（6名）

環境創生学科	2年	三浦 瑠莉
	3年	原田 奈々穂
	4年	大塚 千聡
環境経営システム学科	2年	山崎 莉奈
	3年	内池 駿介
	4年	西谷 直輝

◎メディア情報学部（6名）

社会メディア学科	2年	木本 祥太郎
	3年	米田 希
	4年	狩野 柳月
情報システム学科	2年	落合 真奈
	3年	高野 氷河
	4年	竹屋 桃花

◎都市生活学部（6名）

都市生活学科	2年	菅 みやび
	2年	沼澤 真帆
	3年	押切 結菜
	3年	高橋 ゆり
	4年	是谷 充輝
	4年	堀下 優衣

◎人間科学部（3名）

児童学科	2年	藤澤 日菜
	3年	早見 紗衣
	4年	山形 美鼓音

部活動奨励（計2団体）

- ◎硬式野球部 ◎水泳部

2023年度 東京都市大学 入学試験概要

- ◎理工学部 機械工学科／機械システム工学科／電気電子通信工学科／医用工学科／応用化学科／原子力安全工学科／自然科学科
 ◎建築都市デザイン学部 建築学科／都市工学科 ◎情報工学部 情報科学科／知能情報工学科

入試形態	学科(募集人員)	試験日	試験場	出願期間	選考方法	合格発表
一般選抜	前期3教科型 機械工学科(55) 機械システム工学科(52) 電気電子通信工学科(70) 医用工学科(26) 応用化学科(33) 原子力安全工学科(20) 自然科学科(25) 建築学科(51) 都市工学科(48) 情報科学科(45) 知能情報工学科(37)	2023年 2月1日(水) ～ 2月3日(金) 但し、学外試験場は 2月1日(水)・ 2日(木)のみ	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、郡山 水戸、宇都宮、高崎 浦和、千葉、池袋 町田、藤沢、新潟 金沢、甲府、長野 三島、静岡、名古屋 大阪、広島、福岡 沖縄	2023年 1月5日(木)～ 1月22日(日) 学外試験場希望者は 2023年 1月21日(土)	「理科」+「数学」+「英語」の3教科で判定 (各100点満点、合計300点満点) ■ 理科 「物理」3題、「化学」3題、「生物」3題の合計9題のうち、任意に 3題を選択して解答。 ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月11日(土)
	前期理工系探究型 機械工学科 機械システム工学科 電気電子通信工学科 医用工学科 応用化学科 原子力安全工学科 (20)	各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること 《探究総合問題》 2023年2月4日(土) 試験場:本学(世田谷キャンパス)		2023年 1月5日(木)～ 1月22日(日)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「数学①②」+「選択教科のうち高得点1教科」+「探 究総合問題」で判定 (各教科200点満点に換算(計400点満点)、探究総合 問題200点満点、合計600点満点)	2023年 2月11日(土)
	中期3教科型 機械工学科(15) 機械システム工学科(13) 電気電子通信工学科(20) 医用工学科(7) 応用化学科(10) 原子力安全工学科(4) 自然科学科(10) 建築学科(14) 都市工学科(12) 情報科学科(12) 知能情報工学科(10)	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、水戸 宇都宮、高崎、浦和 千葉、池袋、町田 藤沢、新潟、長野 三島、静岡、名古屋 広島、福岡	2023年 2月20日(月)	2023年 1月5日(木)～ 2月13日(月) 学外試験場希望者は 2023年 2月12日(日)	「理科」+「数学」+「英語」の3教科で判定 (各100点満点、合計300点満点) ■ 理科 「物理」3題、「化学」3題の合計6題のうち、任意に 3題を選択して解答。 ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月25日(土)
	後期2教科型 機械工学科(5) 機械システム工学科(4) 電気電子通信工学科(5) 医用工学科(2) 応用化学科(3) 原子力安全工学科(2) 自然科学科(3) 建築学科(4) 都市工学科(4) 情報科学科(4) 知能情報工学科(3)	本学 (世田谷キャンパス)	2023年 3月4日(土)	2023年 1月5日(木)～ 2月26日(日)	「数学」+「理科または英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 理科 「物理」3題、「化学」3題の合計6題のうち、任意に 3題を選択して解答。	2023年 3月9日(木)
共通テスト利用入試	前期3教科型 (理系重点)※1 機械工学科(19) 機械システム工学科(18) 電気電子通信工学科(23) 医用工学科(12) 応用化学科(12) 原子力安全工学科(6) 自然科学科(12) 建築学科(23) 都市工学科(16)	本学独自試験は実施しない。 各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること	2023年 1月5日(木)～ 1月13日(金)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「数学①②」「理科②」+「選択教科のうち高得点1教 科」の3教科で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)	2023年 2月11日(土)	
	情報科学科(18) 知能情報工学科(13)			大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科の「数 学①②」+「選択教科のうち高得点2教科」の3教科で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)		
	前期5教科基準点型 (理系重点)※1 機械工学科(19) 機械システム工学科(18) 電気電子通信工学科(23) 医用工学科(12) 応用化学科(12) 原子力安全工学科(6) 自然科学科(12) 建築学科(23) 都市工学科(16) 情報科学科(18) 知能情報工学科(13)			大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「国語」「地理歴史・公民」「数学①②」「理科②」「外 国語(英語)」の5教科で判定 (各教科200点満点に換算(国語、地理歴史・公民のみ 素点100点満点)、合計800点満点) 《各学科の定める基準点以上で合格》 機械工学科550点/機械システム工学科550点/電気電子通信工学科 550点/医用工学科550点/応用化学科550点/原子力安全工学科 550点/自然科学科550点/建築学科570点/都市工学科550点/情 報科学科580点/知能情報工学科580点		
	後期3教科小論文型 (理系重点)※2 機械工学科 機械システム工学科 電気電子通信工学科 医用工学科 応用化学科 原子力安全工学科 自然科学科 (4) 建築学科 都市工学科 (2) 情報科学科 知能情報工学科 (2)	各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること 《小論文》 2023年3月14日(火) 試験場:本学(世田谷キャンパス)	2023年 2月20日(月)～ 3月9日(木)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「数学①②」「理科②」+「選択教科のうち高得点1教 科」の3教科+調査書+「小論文」で判定 (各教科200点満点に換算(計600点満点)、調査書10 点満点、小論文140点満点、合計750点満点) 大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「数学①②」+「選択教科のうち高得点2教科」の3教 科+調査書+「小論文」で判定 (各教科200点満点に換算(計600点満点)、調査書10 点満点、小論文140点満点、合計750点満点)	2023年 3月18日(土)	

※1 募集人員は(前期3教科型)と(前期5教科基準点型)を合わせた人数となります。
 ※2 合格者について、特定の学科に偏る場合は調整することがあります。

各入試方式の確定内容や詳細については、入試要項にて確認してください。

◎環境学部 環境創生学科／環境経営システム学科

◎メディア情報学部 社会メディア学科／情報システム学科

◎デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科

入試形態	学科(募集人員)	試験日	試験場	出願期間	選考方法	合格発表
一般選抜	前期3教科型 環境創生学科(38) 環境経営システム学科(38) 社会メディア学科(41) デザイン・データ科学科(35)	2023年 2月1日(水) ～ 2月3日(金) 但し、学外試験場は 2月1日(水)・ 2日(木)のみ	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、郡山 水戸、宇都宮、高崎 浦和、千葉、池袋 町田、藤沢、新潟 金沢、甲府、長野 三島、静岡、名古屋 大阪、広島、福岡 沖縄	2023年 1月5日(木)～ 1月22日(日) 学外試験場希望者は 2023年 1月21日(土)	「理科または地理歴史」+「数学または国語」+「英語」 の3教科で判定 (各100点満点、合計300点満点) ■ 理科 「物理」3題、「化学」3題、「生物」3題の合計9題のうち、任意に 3題を選択して解答。 ■ 地理歴史 「世界史B」「日本史B」のどちらかを解答。 ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月11日(土)
	前期2教科型 情報システム学科(43)				「数学」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。	
	中期2教科型 環境創生学科(10) 環境経営システム学科(10) 社会メディア学科(10) デザイン・データ科学科(10)	2023年 2月20日(月)	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、水戸 宇都宮、高崎、浦和 千葉、池袋、町田 藤沢、新潟、長野 三島、静岡、名古屋 広島、福岡	2023年 1月5日(木)～ 2月13日(月) 学外試験場希望者は 2023年 2月12日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。 「数学」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月25日(土)
	後期2教科型 環境創生学科(3) 環境経営システム学科(3) 社会メディア学科(2) デザイン・データ科学科(2)	2023年 3月4日(土)	本学 (世田谷キャンパス)	2023年 1月5日(木)～ 2月26日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) 「数学」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点)	2023年 3月9日(木)
共通テスト利用入試	理系重点※1 前期3教科型 環境創生学科(12) 情報システム学科(12)	本学独自試験は実施しない。 各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること	2023年 1月5日(木)～ 1月13日(金)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「数学①②」+「選択教科のうち高得点2教科」の3教科 で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)	2023年 2月11日(土)	
	文系重点※2 前期3教科型 環境経営システム学科(12) 社会メディア学科(12) デザイン・データ科学科(12)			大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」 の3教科で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)		
	理系重点※1 前期5教科基準点型 環境創生学科(12) 情報システム学科(12)			大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「国語」「地理歴史・公民」「数学①②」「理科②」「外国 語(英語)」の5教科で判定 (各教科200点満点に換算(国語、地理歴史・公民のみ 素点100点満点)、合計800点満点) 《各学科の定める基準点以上で合格》 環境創生学科550点/情報システム学科580点		
	文系重点※1 前期5教科基準点型 環境経営システム学科(12) 社会メディア学科(12) デザイン・データ科学科(12)			大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「国語」「地理歴史・公民」「数学①または②」「理科①ま たは②」「外国語(英語)」の5教科で判定 (各教科200点満点に換算(数学①②、理科①②のみ素 点100点満点)、合計800点満点) 《各学科の定める基準点以上で合格》 環境経営システム学科550点/社会メディア学科550点/デザイ ン・データ科学科550点		
	理系重点※2※3 後期3教科小論文型 環境創生学科 情報システム学科			各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること		2023年 2月20日(月)～ 3月9日(木)
文系重点※2※3 後期3教科小論文型 環境経営システム学科 社会メディア学科 デザイン・データ科学科(1)	各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること	2023年 2月20日(月)～ 3月9日(木)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」の 3教科+調査書+「小論文」で判定 (各教科200点満点に換算(計600点満点)、調査書 10点満点、小論文140点満点、合計750点満点)	2023年 3月18日(土)		

※1 募集人員は(前期3教科型)と(前期5教科基準点型)を合わせた人数となります。

※2 合格者について、特定の学科に偏る場合は調整することがあります。

※3 募集人員は学部の合計人数となります。

各入試方式の確定内容や詳細については、入試要項にて確認してください。

2023年度 東京都市大学 入学試験概要

◎都市生活学部 都市生活学科

入試形態	学科(募集人員)	試験日	試験場	出願期間	選考方法	合格発表
一般選抜	前期3教科型 都市生活学科(60)	2023年 2月1日(水) ～ 2月3日(金) 但し、学外試験場は 2月1日(水)・ 2日(木)のみ	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、郡山 水戸、宇都宮、高崎 浦和、千葉、池袋 町田、藤沢、新潟 金沢、甲府、長野 三島、静岡、名古屋 大阪、広島、福岡 沖縄	2023年 1月5日(木)～ 1月22日(日) 学外試験場希望者は 2023年 1月21日(土)	「理科または地理歴史」+「数学または国語」+「英語」 の3教科で判定 (各100点満点、合計300点満点) ■ 理科 「物理」3題、「化学」3題、「生物」3題のうち、任意に 3題を選択して解答。 ■ 地理歴史 「世界史B」「日本史B」のどちらかを解答。 ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月11日(土)
	中期2教科型 都市生活学科(17)	2023年 2月20日(月)	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、水戸 宇都宮、高崎、浦和 千葉、池袋、町田 藤沢、新潟、長野 三島、静岡、名古屋 広島、福岡	2023年 1月5日(木)～ 2月13日(月) 学外試験場希望者は 2023年 2月12日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月25日(土)
	後期2教科型 都市生活学科(5)	2023年 3月4日(土)	本学 (世田谷キャンパス)	2023年 1月5日(木)～ 2月26日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点)	2023年 3月9日(木)
共通テスト利用入試	前期3教科型(文系重点) ※1 都市生活学科(23)	本学独自試験は実施しない。 各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること		2023年 1月5日(木)～ 1月13日(金)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」 の3教科で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)	2023年 2月11日(土)
	前期5教科基準点型(文系重点) ※1 都市生活学科(23)				大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「国語」「地理歴史・公民」「数学①または②」「理科①ま たは②」「外国語(英語)」の5教科で判定 (各教科200点満点に換算(数学①②、理科①②のみ素 点100点満点)、合計800点満点) 《各学科の定める基準点以上で合格》 都市生活学科560点	
	後期3教科小論文型 (文系重点) ※2 都市生活学科(1)	各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること 《小論文》 2023年3月14日(火) 試験場:本学(世田谷キャンパス)	2023年 2月20日(月)～ 3月9日(木)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」の 3教科+調査書+「小論文」で判定 (各教科200点満点に換算(計600点満点)、調査書10 点満点、小論文140点満点、合計750点満点)	2023年 3月18日(土)	

※1 募集人員は(前期3教科型)と(前期5教科基準点型)を合わせた人数となります。
※2 合格者について、特定の学科に偏る場合は調整することがあります。

各入試方式の確定内容や詳細については、入試要項にて確認してください。

◎人間科学部 人間科学科

入試形態	学科(募集人員)	試験日	試験場	出願期間	選考方法	合格発表
一般選抜	前期2教科型 人間科学科(27)	2023年 2月1日(水) ～ 2月3日(金) 但し、学外試験場は 2月1日(水)・ 2日(木)のみ	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、郡山 水戸、宇都宮、高崎 浦和、千葉、池袋 町田、藤沢、新潟 金沢、甲府、長野 三島、静岡、名古屋 大阪、広島、福岡 沖縄	2023年 1月5日(木)～ 1月22日(日) 学外試験場希望者は 2023年 1月21日(土)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月11日(土)
	中期2教科型 人間科学科(3)	2023年 2月20日(月)	本学 (世田谷キャンパス)、 札幌、仙台、水戸 宇都宮、高崎、浦和 千葉、池袋、町田 藤沢、新潟、長野 三島、静岡、名古屋 広島、福岡	2023年 1月5日(木)～ 2月13日(月) 学外試験場希望者は 2023年 2月12日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点) ■ 英語 外部試験が利用できません。	2023年 2月25日(土)
	後期2教科型 人間科学科(2)	2023年 3月4日(土)	本学 (世田谷キャンパス)	2023年 1月5日(木)～ 2月26日(日)	「数学または国語」+「英語」の2教科で判定 (各100点満点、合計200点満点)	2023年 3月9日(木)
共通テスト利用入試	前期3教科型(文系重点)※1 人間科学科(6)	本学独自試験は実施しない。 各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること		2023年 1月5日(木)～ 1月13日(金)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 の「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」 の3教科で判定 (各200点満点に換算、合計600点満点)	2023年 2月11日(土)
	前期5教科基準点型(文系重点)※1 人間科学科(6)				大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「国語」「地理歴史・公民」「数学①または②」「理科①ま たは②」「外国語(英語)」の5教科で判定 (各教科200点満点に換算(数学①②、理科①②のみ素 点100点満点)、合計800点満点) 《各学科の定める基準点以上で合格》 人間科学科550点	
	後期3教科小論文型(文系重点)※2 人間科学科(1)	各自大学入学共通テスト (2023年1月14日・15日実施) を受験すること 《小論文》 2023年3月14日(火) 試験場:本学(世田谷キャンパス)	2023年 2月20日(月)～ 3月9日(木)	大学入学共通テストの指定教科・科目のうち、必須教科 「外国語(英語)」+「選択教科のうち高得点2教科」の 3教科+調査書+「小論文」で判定 (各教科200点満点に換算(計600点満点)、調査書10 点満点、小論文140点満点、合計750点満点)	2023年 3月18日(土)	

※1 募集人員は(前期3教科型)と(前期5教科基準点型)を合わせた人数となります。
 ※2 合格者について、特定の学科に偏る場合は調整することがあります。

各入試方式の確定内容や詳細については、入試要項にて確認してください。

2022年度 競争的研究費一覧

競争的研究費 [合計47件 / 331,564千円]

(2022年9月20日現在)

所属	氏名	事業名 / 事業所管機関等	受入額 (千円)
理工学部 機械工学科	伊東 明美	水素内燃機関活用による重量車等脱炭素化実証事業【環境省】	85,944
	藤間 卓也	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)産学共同(育成型)【科学技術振興機構(JST)】	13,000
	杉町 敏之	無人自動運転等のCASE対応に向けた実証・支援事業【経済産業省】	3,300
理工学部 機械システム工学科	田中 康寛	原子力施設等防災対策等委託費【原子力規制庁】	8,149
	三宅 弘晃	情報通信技術の研究開発に係る提案【総務省】	10,350
	白鳥 英	宇宙環境利用専門委員会フロントローディング研究【国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構】	3,400
理工学部 電気電子通信工学科	佐和橋 衛	戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) 電波有効利用促進型研究開発【総務省】	3,874
	中島 達人	多用途多端子直流送電システムの基盤技術開発/多端子高圧直流システム及び保護装置の開発【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	8,800
	中島 達人	ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業 / 先端研究(委託) / デジタルツイン高度化に向けた高精度測位・同期制御技術の研究開発【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	4,600
	中島 達人	NEDO特別講座【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	7,729
	岡野 好伸	研究開発型スタートアップ支援事業NEDO Entrepreneurs Program(NEP)【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	7,632
	三谷 祐一郎	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)トライアウト【科学技術振興機構(JST)】	2,074
	平野 拓一	Beyond 5G研究開発促進事業【情報通信研究機構(NICT)】	5,148
理工学部 応用化学科	黒岩 崇	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)トライアウト【科学技術振興機構(JST)】	1,430
	高津 淑人	道路政策の質の向上に資する技術研究開発【国土交通省】	9,766
理工学部 原子力安全工学科	高木 直行	原子力システム研究開発事業【文部科学省】	29,642
	大鳥 靖樹	原子力人材育成等推進事業費補助金(原子力規制人材育成事業)【原子力規制庁】	11,726
	鈴木 徹	原子力システム研究開発事業【文部科学省】	18,242
	鈴木 徹	溶融炉心物質の相変化挙動に関する基礎研究【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	299
	河原林 順	国際原子力人材育成イニシアティブ事業【文部科学省】	223
	佐藤 勇	原子力システム研究開発事業【文部科学省】	912
	佐藤 勇	英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業【文部科学省】	5,668
	佐藤 勇	格納容器構造材等への核分裂生成物の浸透挙動に関する研究【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	499
	中村 いずみ	社会的要請に応える革新的な原子力技術開発支援事業補助金【経済産業省】	101
	松浦 治明	試験供試料からのU分離プロセスの構築に関する共同研究【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	303
	松浦 治明	生体高分子を用いた硝酸水溶液からのウラン回収【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	252
	松浦 治明	抽出剤-ポリマー相互作用評価に係る研究【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	395
	羽倉 尚人	溶媒を含有する廃吸着材の処理に関する検討【日本原子力研究開発機構(JAEA)】	295
理工学部 自然科学科	田中 健太郎	環境研究総合推進費【環境省】	1,432
建築都市デザイン学部 都市工学科	伊藤 和也	厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)【厚生労働省】	1,200
	三上 貴仁	ベルモント・フォーラム国際共同研究「災害リスク低減とレジリエンス」【科学技術振興機構(JST)】	990
情報工学部 情報科学科	大屋 英稔	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)トライアウト【科学技術振興機構(JST)】	767
	陳 オリビア	戦略的研究推進制度(個人研究型)(さきがけ)【科学技術振興機構(JST)】	5,616
情報工学部 知能情報工学科	田中 宏和	国際研究プログラムに基づく日米連携による脳情報通信研究(第3回)【情報通信研究機構(NICT)】	1,161
環境学部 環境創生学科	横田 樹広	戦略的創造研究推進事業科学技術イノベーション政策のための科学【科学技術振興機構(JST)】	1,300
環境学部 環境経営システム学科	馬場 健司	戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発) 科学技術イノベーション政策のための科学【科学技術振興機構(JST)】	2,340
	古川 柳蔵	共創の場形成支援プログラムCOI-NEXT【科学技術振興機構(JST)】	3,536
都市生活学部 都市生活学科	坂倉 杏介	ムーンショット型研究開発事業【科学技術振興機構(JST)】	1,300
	林 和真	戦略的創造研究推進事業(ACT-X)研究領域:「AI活用で挑む学問の革新と創成」【科学技術振興機構(JST)】	2,470
総合研究所	小長井 誠	グリーンイノベーション基金事業 / 次世代型太陽電池実用化学事業【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	9,000
	三原 雄司	国際研究開発 / コフアント事業 / 日本-ドイツ研究開発協力事業(CORNET)【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	2,183
	三原 雄司	NEDO先導研究プログラム / エネルギー・環境新技術先導研究プログラム【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	25,484
	三原 雄司	グリーンイノベーション基金事業 / CO2等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	2,531
	伊坪 徳宏	みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進(委託プロジェクト研究)(昆虫(カイコ)テクノロジーを活用したグリーンバイオ産業の創出プロジェクト)【農業・食品産業技術総合研究機構】	1,500
	石川 亮佑	太陽光発電主力電源化推進技術開発 / 太陽光発電の新市場創造技術開発【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	10,120
	及川 昌訓	グリーンイノベーション基金事業 / CO2等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	11,802
徐 福国	グリーンイノベーション基金事業 / CO2等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】	3,080	

・競争的研究費とは、政府(資金配分主体)が、広く研究開発課題等を募り、提案された課題の中から、専門家を含む複数の者による、科学的・技術的な観点を中心とした評価に基づいて実施すべき課題を採択し、研究者に配分する研究開発資金をいう(再委託を含む)。
 ・受入額は予定であり、額の確定検査等により契約額・受入額は変更となる場合がある。
 ・表下部記載「合計」の金額は四捨五入で計算の為、「受入額」欄記載の受入額を合計した金額と異なる場合がある。

2022年度 文部科学省科学研究費助成事業(科研費) 交付一覧 [研究種目別]

研究代表者

※配分額は、交付内定時の交付内定一覧記載の各年度の配分額のうち当該年度の配分額を記載

(2022年9月20日現在)

No.	研究種目	所属	研究代表者氏名	配分額(千円)	研究課題名
1	新学術領域研究(研究領域提案型)	自然	津村 耕司	5,200	重力波源からのガンマ線バーストを観測する衛星搭載赤外線望遠鏡の開発
2	基盤研究(A)	環経	伊坪 徳宏	8,190	国際規格の要件と影響領域の網羅性を具備した世界標準のライフサイクル評価手法の開発
3	〃	総研	藤田 博之	16,380	皮膚の遺伝子改変により生体情報を表示するリビングディスプレイの基礎研究
4	基盤研究(B)	機械	藤間 卓也	9,100	階層的多孔構造形成過程のTEM in-situ観察で解明するガラスのミクロ構造
5	〃	応用	小林 亮太	10,400	窒化アルミニウムウイスキーをホストとした高熱伝導・高信頼性蛍光体の開発
6	〃	原安	中村 いずみ	5,070	Natechリスク軽減に向けたプラント配管系の損傷状態定義
7	〃	自然	田中 健太郎	6,240	先進的な地球化学分析を応用した先史時代貝殻遺物の産地判別方法の開発
8	〃	建築	岩下 剛	6,240	福祉・教育施設の環境モニタリングを用いたコロナ禍後の環境調整手法の有効性評価
9	〃	都市	秋山 祐樹	4,290	開発途上国における衛星画像を用いた深層学習によるマイクロ人口統計の実現
10	〃	環創	リジナル ホーム/バドウル	3,380	日本のオフィスビルにおける熱的快適性の適応モデルの開発とそのメカニズムの解明
11	〃	環経	馬場 健司	5,460	地方自治体における気候変動適応策の実効性と波及性・受容性の構造分析
12	〃	総研	石川 亮佑	3,250	原子層材料を用いた究極の薄膜太陽電池の開発
13	基盤研究(C)	教育開発機構	高橋 弘毅	780	遠隔アクティブラーニングをAIを用いて支援するポートフォリオの開発
14	〃	教育開発機構	伊藤 通子	650	継続的で一貫性のあるPBLカリキュラムの、卒業後の学習特性への影響に関する研究
15	〃	教育開発機構	山口 敦子	650	生命科学分野の大規模知識グラフからの構造獲得とそれに基づく効率的知識取得
16	〃	機械	亀山 雄高	1,040	粒子衝突プロセスにおける特異な異種材固相接合現象の究明と常温付加工への展開
17	〃	機械	岸本 喜直	1,430	データ同化とM-M解析によるマルチマテリアル構造の力学性能予測システムの開発
18	〃	機械	佐藤 秀明	2,860	生体に安全な純子タンの乾式研磨を可能にするアルギン酸ナトリウムボンド砥石の開発
19	〃	機械	杉町 敏之	1,430	自動車の遠隔操縦者の運転特性とインターフェースに関する研究
20	〃	機械	西部 光一	1,430	流体マニピュレータの開発に向けた励起噴流群による吸引流方向制御機能の創成
21	〃	機シ	宮坂 明宏	910	宇宙機搭載用の高発電密度の太陽電池アレーの研究
22	〃	機シ	秋田 貢一	520	中性子応力測定の高精度向上のための基準格子定数決定法に関する研究
23	〃	機シ	島野 健仁郎	1,170	低ずり応力下で無損傷の内皮細胞に粘着する血小板数の測定
24	〃	機シ	白鳥 英	3,120	物理法則の機械学習に基づいた革新的データ同化法と塗膜物性値の複数同時推定への応用
25	〃	機シ	永野 秀明	780	姿勢の違いによる血流変化を考慮した温熱快適性評価モデルの開発
26	〃	機シ	渡邊 力夫	780	ハイブリッドロケット酸化剤流動のモデル化と酸化剤流量の高精度予測に関する研究
27	〃	機シ	土方 規実雄	650	回転子が回転磁界より速い速度で回転する新しい高速モータの開発
28	〃	電通	岩尾 徹	780	超高速酸化膜除去手法の確立に向けた大気圧非平衡アーク陰極点の移動現象の解明
29	〃	電通	三谷 祐一郎	1,560	原子状水素を用いたシリコン窒化薄膜のナノ欠陥制御と信頼性向上に関する研究
30	〃	電通	星 裕介	1,560	電場誘起pn接合を利用した近赤外光放射する電流注入型偏光発光素子の創製
31	〃	電通	平野 拓一	1,040	IoT機器のためのミリ波帯ワンチップ無線機の研究
32	〃	医用	京相 雅樹	910	体表面からの微小脊髄電位計測とその信号解析による脊髄機能評価
33	〃	医用	桐生 昭吾	1,040	裁縫技術を用いた磁場結合電力伝送技術の研究
34	〃	医用	桃沢 愛	650	動的酸化試験による再使用型宇宙往還機熱防御システム(TPS)の開発
35	〃	応用	江場 宏美	1,300	共焦点型X線分析装置による常温常圧アンモニア合成の反応過程の解明
36	〃	応用	岩村 武	1,040	高リサイクル性構造材料を指向した架橋型分子レゴブロック高分子の開発
37	〃	応用	秀島 翔	910	幹細胞評価に向けた多孔質無機ナノシートバイオ電極
38	〃	原安	大鳥 靖樹	910	大規模・複雑システムの構成要素の耐震多様化による地震リスク低減に関する研究
39	〃	原安	河原林 順	1,950	放射線療法における後方散乱X線を活用した完全非侵襲体内照射監視システムの開発
40	〃	原安	羽倉 尚人	1,950	WDS-PIXEのエネルギー分解能を飛躍的に向上させるための画像処理手法の開発
41	〃	自然	長田 剛	390	グルーオン飽和描像に基づく幾何学スケーリング現象と小さな系の熱平衡過程
42	〃	自然	須藤 誠一	390	自己光合法の超高感度化による電気泳動現象の非線形緩和の解明に関する研究
43	〃	自然	福田 達哉	1,300	同一の遺伝子が異なる環境への適応を可能にするのか? : 溪流沿いと蛇紋岩地を例に
44	〃	自然	西村 太樹	390	逆運動学によって完全にタグした超高速中性子ビームの開発
45	〃	自然	服部 新	1,430	Drinfeld保型形式の傾斜
46	〃	自然	高木 晋作	1,040	濁度によらない新しい動的散乱測定技術の高分解能化および周波数領域拡張の実現
47	〃	自然	右近 修治	1,170	理工系大学初年度物理受講生の思考過程調査に基づいた多様表現の研究
48	〃	建築	小見 康夫	780	デジタルツインによる既存マンションの維持管理システム構築に関する実践的研究
49	〃	建築	小林 茂雄	390	夜間災害発生時の避難経路における照明の広域最適化に関する研究
50	〃	建築	近藤 靖史	910	二重エアカーテンによる店舗などの空調負荷低減
51	〃	建築	佐藤 幸恵	1,950	高度資源循環型社会の構築に向けた低品質再生骨材の利用最適手法の提案

No.	研究種目	所属	研究代表者氏名	配分額(千円)	研究課題名
52	〃	建築	焦 瑜	1,690	火災を経験した建築構造用鋼材の変形能力とそれに基づく骨組の耐震性能の評価
53	〃	建築	屋敷 和佳	1,170	戦後の学校施設整備の展開と成果検証に関する研究 ― 平成の時代を中心に―
54	〃	都市	五艘 隆志	780	機械学習を用いた建設現場の労働環境・生産性データ収集分析システム構築
55	〃	都市	三上 貴仁	2,470	小河川を有する市街地における浸水災害の実態と流出特性・氾濫特性の理解
56	〃	情科	向井 信彦	1,300	弁の運動動作と左心室の等容性収縮及び弛緩を考慮した血流の可視化と圧力変化の検証
57	〃	情科	大屋 英稔	1,170	心肺停止患者の心電図波形解析に基づく電気的除細動の効果予測システムの検証
58	〃	情科	包 躍	260	発声訓練のための3次元口形認識に関する研究
59	〃	情科	愈 明連	780	モバイル分散環境向けキャッシングシステムを搭載したリアルタイムOSの開発
60	〃	情科	横山 孝典	1,430	メッシュ型分散処理モデルに基づくサイバーフィジカルシステム向け分散処理環境
61	〃	情科	相原 研輔	910	大規模行列方程式に対するクリロフ部分空間法の躍進とリーマニアン最適化への応用
62	〃	情科	張 英夏	650	カテゴリカルカラーネーミングにおける物体固有色名が与える影響の計算機モデルの確立
63	〃	知情	森 博彦	1,560	アクティブラーニングとe-learningによる児童用防災教育カリキュラム開発
64	〃	知情	神野 健哉	1,170	大自由度力学系のアトラクタのダイナミクス解析と群知能創発との関係解明
65	〃	知情	田中 宏和	780	小脳内部順モデル仮説に基づく歩行運動のデータ駆動型同定と小脳障害評価への応用
66	〃	知情	渡部 和雄	1,430	電子出版物と紙出版物の利用促進策・販売促進策の実証的研究
67	〃	環創	横田 樹広	1,170	パンコク近郊における洪水適応型土地利用デザインによる生態系サービスのシナジー評価
68	〃	環創	丹羽 由佳理	520	エリア防災における外国人の避難行動分析からみた都市のマルチリンガル化
69	〃	環経	古川 柳蔵	1,300	ナラティブ・アプローチによるボトムアップ型ライフスタイル転換と定着メカニズム
70	〃	環経	岡田 公治	780	AI(学習)エージェントとシミュレータによるプロジェクト局所最適化抑止法の研究
71	〃	環経	大塚 善樹	780	ドメスティケーション論からみたゲノム編集の「自然さ」についての科学社会学的研究
72	〃	環経	岡田 啓	1,820	環境規制が国際海運船舶の耐用年数とその資産価値へ与える影響の分析
73	〃	社メ	中村 雅子	1,430	地域街づくり活動における情報システムの「使いこなし」と共進化についての実証的研究
74	〃	社メ	広田 すみれ	1,170	映像視聴での没入感や評価への意識されない体感や共同視聴による影響の実験的検討
75	〃	社メ	矢吹 理恵	1,040	日米国際結婚夫婦の葛藤解決の心理過程についての研究
76	〃	社メ	山崎 瑞紀	1,300	注意配分の認知スタイルにおける長期滞在者の文化変容
77	〃	情シ	宮地 英生	1,430	点群軽量化手法を用いたUnity可視化フレームワークとARアプリケーションの開発
78	〃	都生	坂井 文	650	都市開発によって創出された民有公的空間の持続可能な民間管理に向けた手法調査研究
79	〃	都生	宇都 正哲	910	人口減少による住宅資産デフレが都市縮退に与える影響に関する研究
80	〃	都生	川口 和英	520	都市空間における集客学の計画理論構築と観光への応用に関する研究
81	〃	都生	高柳 英明	1,040	歩行群集の小集団化と層状交差現象に着目したダイナミック・クラウドマネジメント手法
82	〃	都生	諫川 輝之	1,040	災害リスク情報が居住地選択に及ぼす影響
83	〃	都生	北見 幸一	1,560	データに基づく効果検証を伴った地方創生シティブロモーションモデルの開発
84	〃	都生	末繁 雄一	1,560	次世代道路空間マネジメントのための路上滞留者とモビリティの協調モデルの構築
85	〃	都生	中島 伸	1,430	北前船の寄港地に着目した生業空間更新計画論確立に向けた研究
86	〃	児童	早坂 信哉	2,340	高齢者の入浴習慣と介護予防・認知症発症予防・抑うつ予防との関連：コホート研究
87	〃	児童	泉 秀生	390	幼児の生活時間を与える保護者の意識と知恵に関する研究
88	〃	人文社会科学系	井上 健	1,040	コミュニティ・スクールの持続・発展に関する調査研究 ― 指定後の転機に着目して―
89	〃	人文社会科学系	新保 良明	1,430	ローマ帝政前期における皇帝裁判の実態に関する基礎的研究
90	〃	人文社会科学系	高橋 国法	780	学生相談における心理面接評価法の開発
91	〃	自然科学系	田邊 顕一郎	1,300	頂点代数上の加群の拡張とテンソル積
92	〃	自然科学系	金川 秀也	780	ポラリティ推定に関する新提案について
93	〃	自然科学系	畑上 到	390	ランダムネスを用いた非線形偏微分方程式の陰的数値解法の開発と数学モデルへの展開
94	若手研究	機シ	藪井 将太	780	データ駆動型社会を支える磁気ディスク装置のマルチアクチュエータ方式の制御系設計
95	〃	建築	片桐 悠自	1,690	マンフレッド・タフーリの設計活動ならびに運動史的影響の研究
96	〃	都市	関屋 英彦	1,170	MEMSセンサと圧電素子センサを活用した鋼道路橋の疲労損傷検知システムの構築
97	〃	社メ	須藤 遙子	780	在日米軍のソフトパワー戦略：親善イベントを対象に
98	〃	都生	橋本 倫明	1,300	変化する事業環境で取締役会が企業のダイナミック・ケイパビリティに与える影響の研究
99	〃	児童	横山 草介	390	ヴィジュアル・ナラティブによる保育実践の省察に関する研究
100	〃	共教	中條 純子	390	学習者の情意面の向上の変容を目的とした英語発音教材の開発
101	挑戦的研究(萌芽)	機シ	野中 謙一郎	1,950	群集流動とその不確定性に適応する電動車いすの自動運転
102	〃	電通	澤野 憲太郎	1,820	多孔質ガラス表面上のGe量子構造創製と光電子融合素子への応用
103	〃	共教	植野 貴志子	1,950	言語・身体・自己意識の相互関係に関する通言語的研究・学際的アプローチに基づいて
104	研究活動スタート支援	情シ	増田 聡	1,430	メタデータのテキスト情報を利用したデータサイエンス自動化プラットフォームの開発
105	〃	都生	太田 明	1,430	J-REITが取得する不動産の質がその投資口価格に与える影響に関する研究
合 計				189,670	

研究分担者 (他大学等の研究代表者の所属機関より分担金の配分を受けるもの)

(2022年9月20日現在)

No.	研究種目	所属	研究分担者氏名	配分額(千円)	研究課題名
1	学術変革領域研究(B)	知情	田中 宏和	130	嫉妬の科学推進のための戦略的研究推進支援
2	〃	知情	田中 宏和	1,820	ロボットの嫉妬:嫉妬生成モジュールを用いた統合モデルの構築
3	基盤研究(S)	電通	澤野 憲太郎	6,500	ゲルマニウムスピンMOSFETの実証
4	基盤研究(A)	機シ	永野 秀明	2,600	建築環境における感染症ホットスポットの迅速特定システムの構築とその緩和策
5	〃	電通	澤野 憲太郎	520	フォノン・電子輸送制御したDirac電子超格子の創製とSi系熱電デバイス開発
6	〃	電通	澤野 憲太郎	1,690	フォトニクスとのアナロジーで拓くサーマルフォノンエンジニアリング
7	〃	自然	津村 耕司	325	ロケット実験による近赤外宇宙背景放射の超過解明と原始ブラックホールの探査
8	〃	自然	西村 太樹	6,825	Sn同位体の核半径・中性子スキンに関する研究
9	〃	都市	吉田 郁政	1,300	ため池群の保全を目的とした高精度地盤調査法の開発と広域リスク評価
10	〃	都市	秋山 祐樹	260	不動産市場とマクロ経済:大規模マイクロデータを用いた解明
11	〃	情科	陳 オリビア	910	超低電力機械学習に向けた確率的超伝導ニューラルネットワークの創出
12	〃	環経	大塚 善樹	819	食農環境分野へのゲノム編集等先端技術応用をめぐる選択と熟議に関する研究
13	〃	社メ	山崎 瑞紀	130	異言語環境下の子供達にどう学ばせるか:教科書学習言語の「学びのデザイン」の国際比較
14	〃	情シ	三川 健太	520	データ駆動型社会の基盤をなす次世代実験計画技術の開発と実証的評価
15	〃	都生	太田 明	1,040	人工社会アプローチによる賑わい空間マネジメントのシミュレーション科学
16	〃	都生	中島 伸	780	大火からの復興を通して近代の町並みの再評価
17	基盤研究(B)	教育開発機構	高橋 弘毅	390	重力波データ抽出方法の開発:新たな解析手法および分散型コンピュータリングの導入
18	〃	教育開発機構	高橋 弘毅	650	重力波望遠鏡のサファイア鏡に潜む非一様な複屈折の診断プログラム開発
19	〃	教育開発機構	伊藤 通子	325	コンピテンシーの形成・評価の検討 - 統合性・分野固有性・エージェンシーに着目して -
20	〃	教育開発機構	伊藤 通子	65	科学技術教育による社会実装力育成と卒業後のキャリア分析及びその教育モデルの構築
21	〃	機シ	佐藤 大祐	156	都市部での高密度ドローン運行戦略のための空力相互作用を考慮した近接飛行限界の解明
22	〃	機シ	藪井 将太	130	ロケットターボポンプのロータダイナミクスの半解析的流体振動連成解析技術の開発
23	〃	電通	江原 由泰	1,300	矩形波交流高電界を利用した船舶排ガス中ブラックカーボンの超高効率除去
24	〃	原安	羽倉 尚人	2,080	半導体中に量子ビットを自在に形成するナノスケール単一オン注入
25	〃	原安	羽倉 尚人	325	百年・千年後の影響を見据えた文化財にやさしい陽子線励起単色X線による蛍光X線分析
26	〃	自然	津村 耕司	65	惑星探査機搭載望遠鏡を用いた深宇宙における光赤外線天文学の創成
27	〃	自然	西村 太樹	2,860	医学応用に向けた立体角粒子検出器による核反応多重同時測定法の開発
28	〃	自然	西村 太樹	1,300	アイソマー状態の中性子を含む核物質半径測定と宇宙における元素合成
29	〃	自然	右近 修治	260	概念形成過程の実証的研究と一体化した物理概念調査紙群の開発
30	〃	建築	落合 陽	72	高強度化された木質構造接合部を対象とした割裂耐力の推定方法の提案
31	〃	都市	吉田 郁政	650	地盤構造物の破壊シナリオ誘導型設計への挑戦
32	〃	都市	秋山 祐樹	910	人流ネットワークに特化した数理解析基盤の整備とその応用
33	〃	都市	稲垣 具志	910	オリンピックを契機とした新観光者層指標と観光施設経営ロジックの解明
34	〃	情科	相原 研輔	780	疎行列を係数とする線形方程式の反復解法と精度保証付き数値計算法の融合
35	〃	環創	横田 樹広	364	都市環境改善・減災のための人口減少適応型グリーンインフラ計画に向けた分野融合研究
36	〃	環創	横田 樹広	650	粗放管理時代における河川堤防の合理的な植生管理・生態緑化手法の開発
37	〃	環創	丹羽 由佳理	650	広域ネットワーク人流シミュレーションによる統合的パリアフリールートの整備デザイン
38	〃	環経	佐藤 真久	390	環境教育 / ESDと消費者教育の連携:日本型教員養成・研修・支援モデルと国際貢献
39	〃	環経	佐藤 真久	260	研究者と教育者の協働によるシビック・アクション促進に向けた環境教育プログラム開発
40	〃	環経	佐藤 真久	65	Society 5.0に込める日本型STEM教育改革の理論と実践に関する実証研究
41	〃	情シ	藤原 賢二	845	多階層マルチスケール・ソフトウェア分析基盤に関する研究開発
42	〃	都生	林 和真	520	ネオリバeral都市の空間変容過程の解明と包容都市計画論の構築に関する国際比較研究
43	〃	都生	中島 伸	260	「文化運動としての都市計画」の理論・歴史・実践
44	〃	都生	中島 伸	260	戦前-戦後移行期における都市計画の再評価と計画システムの連続性の検証
45	〃	都生	中島 伸	260	社会的葛藤を抱える地域のまちづくりにおける価値の公正な記述手法の開発
46	〃	共教	植野 貴志子	185	インターアクションにおけるモダリティの多言語間比較 - 「場の語用論」の構築に向けて
47	基盤研究(C)	教育開発機構	高橋 弘毅	13	深層学習によるCOVID-19感染伝播と経済活動を同時制御する社会運営戦略の発見
48	〃	教育開発機構	高橋 弘毅	78	アクティブラーニングにおける振り返り分析支援システムの構築
49	〃	機械	横 徹雄	949	スマートフォンのセンサー性能限界を乗り越えて実現する自転車事故トリアージシステム
50	〃	機械	横 徹雄	65	CAE解析による転落時の人体挙動解明
51	〃	機械	櫻井 俊彰	65	CAE解析による転落時の人体挙動解明
52	〃	機シ	熊谷 正芳	260	機能性鉄合金の強制・減速運動応答性の多面的解析による振動制御指針
53	〃	電通	澤野 憲太郎	130	(110)面を表面に有する歪みシリコン薄膜の酸化膜 / 半導体界面準位に関する研究
54	〃	医用	桐生 昭吾	13	吃音の重症度別機序の検討と重症度による認知神経心理学的介入の試み
55	〃	応用	岩村 武	260	アルボレスセントポリマーの固定化による機能性表面の構築
56	〃	情科	田口 亮	65	AIを用いた口腔機能低下(オーラルフレイル)自動画像診断支援ソフトウェアの開発
57	〃	情科	中野 秀洋	572	スパイキングニューラルネットワークによる高次元最適化問題の解法とその専用回路開発
58	〃	知情	塩本 公平	130	メッセージ分割型LPWANのためのQoS保証トラフィック制御方式の研究
59	〃	知情	塩本 公平	2,210	デッドライン付きデータ転送ジョブのスケジューリングに対する強化学習の適用研究
60	〃	環経	佐藤 真久	65	地球的課題の解決志向型中等地理カリキュラムに関する理論的実践的研究
61	〃	社メ	矢吹 理恵	130	子育て夫婦における家計管理タイプの変遷とその規定因:家計の伴侶性の観点から
62	〃	情シ	宮地 英生	130	科学的可視化と情報可視化を融合する可視化フレームワークの開発
63	〃	児童	泉 秀生	65	COVID-19流行時の幼児の生活習慣や身体状況からみた健康管理上の課題と対策
64	〃	自然	右近 修治	130	思考過程の可視化による物理の多様表現の困難と克服 - CBTでの新たな表現を踏まえて
65	〃	自然	右近 修治	117	物理教育研究を踏まえた専門的力量を持つ中高教員育成プログラムの研究開発
66	〃	総研	藤田 博之	65	単一細胞・細胞部位の機械的特性と遺伝子発現情報の相関評価
67	挑戦的研究(萌芽)	機シ	佐藤 大祐	1,166	産婦人科医師と患者双方の信頼度向上のための羞恥心の定量化
68	〃	電通	澤野 憲太郎	910	ピラミッド光電変換層が拓くギガ秒イメージング
69	〃	社メ	永盛 祐介	260	生理学的指標に基づく企業のデザイン職 / 非デザイン職におけるデザイン態度の評価
70	国際共同研究強化(B)	自然	津村 耕司	390	ロケット実験CIBER-2による近赤外宇宙背景放射の強度とゆらぎ超過の起源解明
71	〃	都市	三上 貴仁	260	北極圏の沿岸防災に関するカナダとの国際共同研究
72	〃	総研	秋山 知宏	156	他なるものとの共存に向けた政治教育:日本先導によるアメリカ実践哲学の国際対話研究
合計				52,759	

財務情報の公開 《決算》

《2021年度決算について》

【事業活動収支計算書】

事業活動収支計算書（企業会計でいう損益計算書に相当）における教育活動収入計は予算比3億2400万円減の135億3700万円となりました。

学生数は予算比107名増の7,667人となり、収容定員を上回る学生数を継続して確保し、授業料は予算比で上回ったものの、反面コロナ禍によるTAP/TUCPが渡航延期となり参加費が減少しました。

外部資金の状況では、コロナ禍により受託研究料（付随事業収入）が予算比で減少しましたが、「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」や「次世代研究者挑戦的研究プログラム」などが新たに採択され、補助金は予算比で増加しました。

教育活動支出計は予算比12億1800万円減の117億3900万円となりました。

コロナ禍の影響によりTAP/TUCPへの学生派遣を延期した影響や、受託研究料の減少に伴う受託研究費支出の減少、世田谷キャンパス再整備計画に係る費用計上額の減少がありました。

この結果、教育活動収支差額は17億9700万円、経常収支差額は予算比8億9300万円増の19億1500万円となりました。

特別収支差額は6800万円となり、世田谷キャンパス新7号館が経済産業省のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）実証事業に大学として唯一採択された

ことによる施設設備補助金や、等々力キャンパス移転に伴う2キャンパス化による図書を除却損などを計上しています。

固定資産取得相当額である基本金組入額は、世田谷キャンパス再整備事業などにより75億8400万円となり、組入後の当年度収支差額は予算比で24億5300万円増加したものの56億円の大幅な支出超過となりました。

【資金収支計算書】

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する収支すべての内容とし、支払資金のてん末を明らかにするために作成します。事業活動収支計算書と概ね同内容となる科目は説明を省略します。

収入の部合計は、191億7200万円となり予算比15億1300万円の減少となりました。これは、予算では「その他の収入」において世田谷キャンパス再整備費用に充当するための施設引当特定資産の取崩を見込んでおりましたが、建設費の出来高払い減少により取崩額が減少したことなどによります。

支出の部合計は、189億4100万円となり予算比で16億9300万円の減少となりました。これは、施設関係支出において、世田谷キャンパス再整備に伴う新棟建設費用の支出計上年度が一部繰り延べられたことなどによります。

以上の結果、2021年度の資金収支差額は、予算比1億7900万円増の2億3100万円となりました。

事業活動収支計算書（2021年4月1日から2022年3月31日まで）

（単位：円）

科目		予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	10,743,148,000	10,317,031,100	426,116,900
	手数料	488,125,000	550,106,407	△ 61,981,407
	寄付金	112,799,000	108,903,377	3,895,623
	経常費等補助金	1,483,376,000	1,603,093,463	△ 119,717,463
	国庫補助金	1,482,820,000	1,584,199,991	△ 101,379,991
	地方公共団体補助金	556,000	18,893,472	△ 18,337,472
	学術研究振興資金	0	0	0
	付随事業収入	799,367,000	668,447,437	130,919,563
	雑収入	235,516,000	290,299,613	△ 54,783,613
	教育活動収入計	13,862,331,000	13,537,881,397	324,449,603
	事業活動支出の部			
	人件費	5,889,416,000	5,872,067,306	17,348,694
	教育研究経費	6,268,541,000	5,053,200,291	1,215,340,709
管理経費	800,762,000	814,644,881	△ 13,882,881	
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	12,958,719,000	11,739,912,478	1,218,806,522	
教育活動収支差額	903,612,000	1,797,968,919	△ 894,356,919	
教育活動外収支	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	129,452,000	128,673,954	778,046
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	129,452,000	128,673,954	778,046
	事業活動支出の部			
	借入金等利息	10,659,000	10,657,795	1,205
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	10,659,000	10,657,795	1,205	
教育活動外収支差額	118,793,000	118,016,159	776,841	
経常収支差額	1,022,405,000	1,915,985,078	△ 893,580,078	
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	5,411,613	△ 5,411,613
	その他の特別収入	0	240,131,140	△ 240,131,140
	施設設備補助金	0	163,133,797	△ 163,133,797
	特別収入計	0	245,542,753	△ 245,542,753
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	0	177,145,370	△ 177,145,370
	その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	177,145,370	△ 177,145,370	
特別収支差額	0	68,397,383	△ 68,397,383	
予備費	50,000,000	—	50,000,000	
基本金組入前当年度収支差額	972,405,000	1,984,382,461	△ 1,011,977,461	
基本金組入額合計	△ 9,025,948,000	△ 7,584,529,807	△ 1,441,418,193	
当年度収支差額	△ 8,053,543,000	△ 5,600,147,346	△ 2,453,395,654	
（参考）				
事業活動収入計	13,991,783,000	13,912,098,104	79,684,896	
事業活動支出計	13,019,378,000	11,927,715,643	1,091,662,357	

資金収支計算書 (2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
収入の部	学生生徒等納付金収入	10,743,148,000	10,317,031,100	426,116,900
	手数料収入	488,125,000	550,106,407	△ 61,981,407
	寄付金収入	112,799,000	109,784,849	3,014,151
	補助金収入	1,483,376,000	1,766,227,260	△ 282,851,260
	国庫補助金収入	1,482,820,000	1,584,199,991	△ 101,379,991
	地方公共団体補助金収入	556,000	182,027,269	△ 181,471,269
	学術研究振興資金収入	0	0	0
	国際教育協会援助金収入	0	0	0
	資産売却収入	0	10,763,500	△ 10,763,500
	付随事業・収益事業収入	799,367,000	668,447,437	130,919,563
	受取利息・配当金収入	129,452,000	128,673,954	778,046
	雑収入	235,516,000	290,230,483	△ 54,714,483
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,576,716,000	3,027,862,769	△ 451,146,769
その他の収入	6,964,173,000	5,473,790,241	1,490,382,759	
資金収入調整勘定	△ 2,846,487,000	△ 3,170,194,582	323,707,582	
収入の部合計	20,686,185,000	19,172,723,418	1,513,461,582	
支出の部	人件費支出	5,845,405,000	5,862,432,587	△ 17,027,587
	教育研究経費支出	4,990,023,000	3,742,982,419	1,247,040,581
	管理経費支出	708,659,000	721,266,311	△ 12,607,311
	借入金等利息支出	10,659,000	10,657,795	1,205
	借入金等返済支出	216,650,000	216,650,000	0
	施設関係支出	8,031,090,000	6,805,224,474	1,225,865,526
	設備関係支出	778,208,000	741,769,258	36,438,742
	資産運用支出	0	751,000,000	△ 751,000,000
	その他の支出	79,638,000	582,713,249	△ 503,075,249
	予備費	50,000,000	—	50,000,000
	資金支出調整勘定	△ 76,000,000	△ 493,551,400	417,551,400
	支出の部合計	20,634,332,000	18,941,144,693	1,693,187,307
	当年度資金収支差額	51,853,000	231,578,725	△ 179,725,725

活動区分資金収支計算書 (2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異		
教育活動	収入	学生生徒等納付金収入	10,743,148,000	10,317,031,100	426,116,900	
		手数料収入	488,125,000	550,106,407	△ 61,981,407	
		特別寄付金収入	112,141,000	107,480,849	4,660,151	
		一般寄付金収入	658,000	950,000	△ 292,000	
		経常費等補助金収入	1,483,376,000	1,603,093,463	△ 119,717,463	
		付随事業収入	799,367,000	668,447,437	130,919,563	
		雑収入	235,516,000	290,230,483	△ 54,714,483	
		教育活動資金収入計	13,862,331,000	13,537,339,739	324,991,261	
		支出	人件費支出	5,845,405,000	5,862,432,587	△ 17,027,587
			教育研究経費支出	4,990,023,000	3,742,982,419	1,247,040,581
	管理経費支出		708,659,000	721,266,311	△ 12,607,311	
	教育活動資金支出計		11,544,087,000	10,326,681,317	1,217,405,683	
	差引	2,318,244,000	3,210,658,422	△ 892,414,422		
	調整勘定等	52,915,000	292,632,995	△ 239,717,995		
教育活動資金収支差額	2,371,159,000	3,503,291,417	△ 1,132,132,417			
施設整備等活動	収入	施設設備寄付金収入	0	1,354,000	△ 1,354,000	
		施設設備補助金収入	0	163,133,797	△ 163,133,797	
		施設設備売却収入	0	10,763,500	△ 10,763,500	
		その他	6,632,000,000	4,684,185,000	1,947,815,000	
		施設整備等活動資金収入計	6,632,000,000	4,859,436,297	1,772,563,703	
	支出	施設関係支出	8,031,090,000	6,805,224,474	1,225,865,526	
		設備関係支出	778,208,000	741,769,258	36,438,742	
		その他	0	751,000,000	△ 751,000,000	
		施設整備等活動資金支出計	8,809,298,000	8,297,993,732	511,304,268	
		差引	△ 2,177,298,000	△ 3,438,557,435	1,261,259,435	
調整勘定等	6,159,000	401,970,276	△ 395,811,276			
施設整備等活動資金収支差額	△ 2,171,139,000	△ 3,036,587,159	865,448,159			
小計(教育活動+施設整備等)	200,020,000	466,704,258	△ 266,684,258			
その他の活動	収入	借入金等収入	0	0	0	
		受取利息・配当金収入	129,452,000	128,673,954	778,046	
		収益事業収入	0	0	0	
		その他	0	△ 75,060,371	75,060,371	
		その他の活動資金収入計	129,452,000	53,613,583	75,838,417	
	支出	借入金等返済支出	216,650,000	216,650,000	0	
		その他	10,969,000	72,089,116	△ 61,120,116	
		その他の活動資金支出計	227,619,000	288,739,116	△ 61,120,116	
		差引	△ 98,167,000	△ 235,125,533	136,958,533	
		調整勘定等	0	0	0	
その他の活動資金収支差額	△ 98,167,000	△ 235,125,533	136,958,533			
予備費	50,000,000	—	50,000,000			
支払資金の増減額(小計+その他の活動)	51,853,000	231,578,725	△ 179,725,725			

財務情報の公開《予算》

《2022年度予算について》

2022年度は、都市大グループ中期事業方針による重点課題を達成するため、引き続き世田谷キャンパス再整備をはじめとした教育研究環境の整備充実、国際化教育などへの注力を反映した予算編成となります。

【事業活動収支予算書】

教育活動収入計は、前年度予算比6億2900万円増の144億9100万円を見込んでおります。学生数7,752人を見込み、2年目となる学費改定効果やTAP延期に伴う参加者増による参加費の増加、大学教育再生戦略推進費補助金獲得など収入面では安定的な増収を見込んでおります。

教育活動支出計は、142億200万円、前年度予算比12億4300万円の大幅な増加を見込んでおります。これは主に世田谷キャンパス再整備に伴う移転費用や10号館などの解体費用、渡航延期となっていたTAP再開に伴う費用および2021年度に竣工した新7号館の減価償却額が増加することなどによります。

以上より教育活動収支差額は前年度予算比で減少し2億8900万円を見込みました。このほか資金運用による利息や借入利息の支払を計上する教育活動外収支を合計した経常収支差額は前年度予算比6億2100万円減少の4億円を

見込んでおります。

特別収支では世田谷キャンパス再整備に伴う解体建物の除却損を計上しています。世田谷キャンパス再整備などにかかる固定資産取得相当額を基本金として組み入れたのちの当年度収支差額は21億2400万円の支出超過を見込んでおります。

【資金収支予算書】

資金収支予算書について、事業活動収支予算書と重複しない部分について説明します。

資金収入合計は、165億4700万円を見込んでおります。「その他の収入」において、世田谷キャンパス再整備のため施設拡充引当特定資産21億2000万円の取崩しを計上しております。

資金支出合計は、163億4100万円を見込んでおります。このうち世田谷キャンパス再整備工事2022年度分は、合計で36億5300万円を見込んでおります。

この結果、当年度資金収支差額は前年度予算比1億5300万円増の2億500万円を見込む予算となります。

事業活動収支予算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:円)

科目	本年度予算	前年度予算	増減
教育活動収支			
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	11,275,730,000	10,743,148,000	532,582,000
手数料	464,931,000	488,125,000	△ 23,194,000
寄付金	112,799,000	112,799,000	0
経常費等補助金	1,534,296,000	1,483,376,000	50,920,000
国庫補助金	1,533,740,000	1,482,820,000	50,920,000
地方公共団体補助金	556,000	556,000	0
学術研究振興資金	0	0	0
付随事業収入	819,225,000	799,367,000	19,858,000
雑収入	284,891,000	235,516,000	49,375,000
教育活動収入計	14,491,872,000	13,862,331,000	629,541,000
事業活動支出の部			
人件費	5,856,497,000	5,889,416,000	△ 32,919,000
教育研究経費	7,552,718,000	6,268,541,000	1,284,177,000
管理経費	793,052,000	800,762,000	△ 7,710,000
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	14,202,267,000	12,958,719,000	1,243,548,000
教育活動収支差額	289,605,000	903,612,000	△ 614,007,000
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	119,751,000	129,452,000	△ 9,701,000
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	119,751,000	129,452,000	△ 9,701,000
事業活動支出の部			
借入金等利息	8,834,000	10,659,000	△ 1,825,000
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	8,834,000	10,659,000	△ 1,825,000
教育活動外収支差額	110,917,000	118,793,000	△ 7,876,000
経常収支差額	400,522,000	1,022,405,000	△ 621,883,000
特別収支			
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	0	0
施設設備補助金	0	0	0
特別収入計	0	0	0
事業活動支出の部			
資産処分差額	239,257,000	0	239,257,000
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	239,257,000	0	239,257,000
特別収支差額	△ 239,257,000	0	△ 239,257,000
予備費	50,000,000	50,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額	111,265,000	972,405,000	△ 861,140,000
基本金組入額合計	△ 2,235,269,000	△ 9,025,948,000	6,790,679,000
当年度収支差額	△ 2,124,004,000	△ 8,053,543,000	5,929,539,000
(参考)			
事業活動収入計	14,611,623,000	13,991,783,000	619,840,000
事業活動支出計	14,500,358,000	13,019,378,000	1,480,980,000

■ 資金収支予算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:円)

科 目		本年度予算	前年度予算	増 減
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,275,730,000	10,743,148,000	532,582,000
	手数料収入	464,931,000	488,125,000	△ 23,194,000
	寄付金収入	112,799,000	112,799,000	0
	補助金収入	1,534,296,000	1,483,376,000	50,920,000
	国庫補助金収入	1,533,740,000	1,482,820,000	50,920,000
	地方公共団体補助金収入	556,000	556,000	0
	学術研究振興資金収入	0	0	0
	国際教育協会援助金収入	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	819,225,000	799,367,000	19,858,000
	受取利息・配当金収入	119,751,000	129,452,000	△ 9,701,000
	雑収入	284,891,000	235,516,000	49,375,000
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,594,478,000	2,576,716,000	17,762,000
	その他の収入	2,403,302,000	6,964,173,000	△ 4,560,871,000
	資金収入調整勘定	△ 3,061,959,000	△ 2,846,487,000	△ 215,472,000
収入の部合計	16,547,444,000	20,686,185,000	△ 4,138,741,000	
支出の部	人件費支出	5,856,926,000	5,845,405,000	11,521,000
	教育研究経費支出	6,137,848,000	4,990,023,000	1,147,825,000
	管理経費支出	696,987,000	708,659,000	△ 11,672,000
	借入金等利息支出	8,834,000	10,659,000	△ 1,825,000
	借入金等返済支出	199,991,000	216,650,000	△ 16,659,000
	施設関係支出	2,745,602,000	8,031,090,000	△ 5,285,488,000
	設備関係支出	645,676,000	778,208,000	△ 132,532,000
	資産運用支出	0	0	0
	その他の支出	76,000,000	79,638,000	△ 3,638,000
	予備費	50,000,000	50,000,000	0
	資金支出調整勘定	△ 76,000,000	△ 76,000,000	0
	支出の部合計	16,341,864,000	20,634,332,000	△ 4,292,468,000
当年度資金収支差額	205,580,000	51,853,000	153,727,000	

2022年度 学生団体

(単位:人)

団体名	団体数	1年	2年	3年	4年	計
文化団体連合会	28	305	129	139	51	624 (16.2%)
体育会	26	281	229	201	278	989 (25.6%)
学生団体連合会 学生団体連合会横浜分室 新聞会 吹奏楽団会 放送団会 学園祭運営委員会 世田谷祭会 実行委員会 横浜祭実行委員会 ISO学生委員会	9	172	176	127	151	626 (16.2%)
同好会連合	21	268	343	314	344	1,269 (32.9%)
愛好会	8	97	90	78	87	352 (9.1%)
学科研究会	19	135	258	259	181	833
計(学科研究会除く)	92	1,123 [63.2%]	967 [54.1%]	859 [52.5%]	911 [52.5%]	3,860 [55.7%]

《 》内は全加入者数に対する各団体の比率 【 】内は各学年在学生数に対する比率

学生団体連合会(9団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
学生団体連合会	飯島 正徳	金澤 響	自然	35
学生団体連合会横浜分室	飯島 健太郎	江原 繁光	社メ	27
新聞会	山崎 瑞紀	藤田 開	環創	38
吹奏楽団会	岩尾 徹	松尾 愛里紗	電通	49
放送団会	林 正博	井波 辰朗	知能	20
世田谷祭実行委員会	藤間 卓也	大友 康生	知能	269
横浜祭実行委員会	奥村 倫弘	井上 優太	情シ	82
学園祭運営委員会	黒岩 崇	金澤 響	自然	16
ISO学生委員会	古川 柳蔵	山田 薫月	環創	88

文化団体連合会(28団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
文化団体連合会・本部	秋山 義典	関戸 太祐	電通	10
自動車部	三原 雄司	小門 達弥	機械	20
グリークラブ	田口 亮	森 祐希乃	エネ	9
写真部	岡山 理香	川合 遼一	電通	48
鉄道研究部	浜村 尚樹	藤嶋 洋	電気	27
美術部	熊谷 正芳	高橋 一心	機械	8
ウエスタンクラブ	門多 顕司	泉 諒音	知能	34
フォークソングクラブ	澤野 憲太郎	福嶋 知集	自然	20
ハワイアンクラブ	今福 宗行	小野 雄史	建築	145
パチャラーセブン	吉田 真史	手塚 捺恵	機シ	30
SFファンタジー研究部	佐藤 秀明	鈴木 景子	機シ	30
モーターサイクル部	堀越 篤史	酒巻 将太郎	建築	10
航空研究部	白鳥 英	北井 智也	電通	27
天文研究部	三宅 弘晃	高野 航汰	機シ	34
サイクリング部	手塚 貴晴	田中 優太郎	都市	19
潜水科学研究会	高橋 政志	阿部 鉄平	エネ	19
軽音楽団体スナイプス	中島 保寿	川口 友哉	機シ	70
漫画アニメ研究部	田中 康寛	樋口 俊輔	27	
コンピュータ技術研究会	荒井 秀一	戸澤 空	電通	42
アカペラサークルGroove	杉本 裕代	高橋 慧伍	自然	50
スカイスポーツ部	渡邊 利夫	嶋居 優介	エネ	14
音楽団体PLAM	吉田 国子	田中 静	社メ	104
ダンス部LAVI	永盛 祐介	萩原 昂	医用	11
UPBEAT	高橋 うちら	石井 柚香	児童	81
エンタテインメントsky tone	岩田 道子	小谷 彩夏	機械	19
児童文化研究会 ぼっけ	原田 留美	稲山 真衣	児童	41
競技麻雀愛好会	渡邊 力夫	河村 一樹	環経	33
ワンデリングスキー部	井上 浩一	松井 隆祥	原子	7

体育会(26団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
体育会・本部	椿原 徹也	上野 太幹	建築	9
空手道部	薩川 尚昭	中田 吹雪	知能	31
剣道部	久保 哲也	高橋 竜都	機械	19
柔道部	大村 哲矢	高橋 攻誠	建築	3
硬式野球部	小川 孝文	小川 大地	原子	49
ワンダーフォーゲル部	白旗 弘実	藤田 颯太郎	建築	39

バスケットボール部	栗原 哲彦	齋藤 仙太	都市	33
水泳部	江場 宏美	有馬 兼吾	建築	35
ラグビー部	椿原 徹也	青木 悠	機シ	32
サッカー部	三幣 友行	佐藤 匠	建築	44
ハンドボール部	山田 盛朗	諏訪 間裕梧	機シ	17
卓球部	西村 太樹	梶原 颯太	都市	30
バレーボール部	関口 和真	渡邊 拓郎	情科	16
硬式庭球部	岩嶋 孝夫	鳥居 拓未	原子	30
ソフトテニス部	大久保 寛基	木村 大生	機シ	12
アイスホッケー部	末政 直晃	吉田 智揮	都市	18
バドミントン部	岡本 悠馬	岡本 悠馬	都市	28
弓道部	白木 尚人	原 奨馬	都市	39
ヨット部	渡邊 大輔	守 良樹	電通	4
合気道部	鈴木 憲道	大野 樹	都市	12
少林気拳法部	亀山 雄高	清水 祐弥	機械	2
準硬式野球部	小林 志好	橋本 聖	環経	28
アメリカンフットボール部	白木 尚人	田村 亮太	機械	28
陸上競技部	門多 顕司	清水 貴文	機械	42
ゴルフ部	江原 由泰	豊福 健人	電通	8
フットサル部	横井 利彰	園田 隼汰	自然	18

同好会連合(21団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
同好会連合・本部	黒岩 崇	小島 和也	医用	13
フォルテローテニス同好会	秋山 義典	神田 洸希	機械	11
ゼフィルススキー同好会	五艘 隆志	林 直輝	機シ	37
アウトドアライフ同好会	野中 謙一郎	田上 直篤	エネ	29
軟式野球同好会 コジラ	穴田 一	清田 大智	電通	19
フットサルサークル CRY	平田 孝道	田谷 俊樹	都市	20
バスケットボール同好会ドーナツ	横田 樹広	高島 一真	環創	73
フットサル同好会Freak's	大谷 紀子	上原 一斗	環経	64
テニスサークルルーヴェ	中村 雅子	平綿 素望	情シ	88
バドミントンサークルエンデバー	岡部 大介	飯塚 智哉	社メ	161
テニス同好会Circus	H.B.リザル	角田 悠	社メ	25
バレーボールサークルAtlas	佐藤 真久	妻鹿 瑞	環経	89
環境サークルGreen Days	大久保 寛基	小野 友佑	環創	64
創作サークルarte	小池 星多	前川 耀毅	機シ	13
デジタルコンテンツ研究会	関 良明	山下 真和都	情シ	138
演劇サークル 劇団深谷	中村 雅子	三浦 瑠莉	環創	10
All Round	木内 英実	後藤 瑞稀	環創	79
テニスサークル BOOM	山根 格	渡辺 舜基	建築	18
世界遺産研究会	信太 洋行	矢作 瞬	都市	11
フットサルサークル REAL PETS	中島 伸	二木 七翼	建築	79
バレーボールサークル CUBE	諫川 輝之	中野 彩香	児童	228

学科研究会連合(19団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
学科研究会連合・本部	鈴木 憲吏	足立 愛実	機シ	22
機親会	眞保 良吉	小松 祥己	機シ	26
閃源会	鈴木 徹	橋本 ゆうき	原子	9
医工会学生会	幸野 昭吾	桐生 拓真	医用	52
電気電子通信工科学学生会	岩尾 徹	琴浦 将貴	電通	9
化学源会	高橋 政志	田邊 理乃	エネ	25
学生如学会	手塚 貴晴	中島 弘樹	建築	338
新緑会	栗原 貴晴	浅田 理玖	環創(修士)	29
情報科学科研究会	横山 孝典	中澤 健大	情科	42
知湊会	森 博彦	大原 拓真	知能	36
自然科学科学生会	姓原 絹子	原田 菜里	自然	47
環境創生学科学学生会	飯島 健太郎	澤口 竣太	環創	9
環境経営システム学科学学生会	古川 柳蔵	池田 隆汰	環経	6
社会メディア学科学学生会	高田 昌幸	高橋 大地	社メ	22
情報システム学科学学生会	岩野 公司	根本 美歩	情シ	36
都市生活学科学学生会	坂井 文哉	吉川 遼	都市	39
児童学科学学生会	早坂 信哉	渡邊 嵩丸	児童	40
世田谷留学生会	大島 靖樹	鄭 子セン	知能	6
横浜留学生会	横井 利彰	王 一勉	環創	40

愛好会(8団体)

団体名	顧問	学生責任者	学科	部員数
ランドスケープ研究会	田中 章	大野 虹	環創	26
サッカーサークル JAGUAR	神野 健哉	美川 佑之	環経	12
e-sportsサークル Toriela	兼子 毅	鳥畑 圭介	情シ	97
都市緑化研究会	飯島 健太郎	小須田 龍星	環創	10
バスケットボールサークル Buzz	明石 達生	西川 承助	機シ	141
フィギュアスケートサークル「Axel」	横山 草介	山下 風花	児童	2
S P I R A L	鈴木 徹	大野 隼輝	原子	36
# # (W S h a r l)	三谷 祐一郎	川原 永習	電通	28

課外活動

学生団体の主な活動状況(2021年11月1日~2022年5月31日)

学生団体連合会

団体名	月日・場所	大会・催し物名	結果
学生団体連合会	4月2日~15日 世田谷キャンパス	2022 スプリングフェスティバル (新入生歓迎会)	対面にて、スプリングフェスティバルを2年ぶりに開催した。設置ブースでは、多くの団体の活動を新入生に認知してもらうことができた。
	4月7日 横浜キャンパス	2022 フレッシュアーズキャンプ	学生団体連合会横浜分室主催のフレッシュアーズキャンプの補助を行った。オンラインでの生配信ではあったが、円滑な運営を補助することができた。
学生団体連合会 横浜分室	12月1日 オンラインおよび 横浜キャンパス	第24日 チャリティー フェスティバル	「再始動」というテーマのもと、参加を希望した6つの団体紹介と、横浜キャンパスの唐揚げ丼の製作工程にある環境配慮の調査・発表を行い、SDGs達成に向けたチャリティー活動を行った。
	4月2日~6日、14日、15日 世田谷キャンパス(2日) 横浜キャンパス(4~6日) オンライン (3、5、6、14、15日)	2022 スプリングフェスティバル	ピラ配りやオンラインブースの設置により、世田谷・横浜、両キャンパスの新1年生に多くの課外活動団体を周知することに成功した。
	4月7日 オンラインおよび 横浜キャンパス	2022 フレッシュアーズキャンプ	フレンドシップアワーでは横浜キャンパスの新1年生全員に多くの課外活動団体を紹介することができ、各団体のオープンチャットにも多くの学生が参加するなど良い反響が見られた。加えて、その後のフリーコミュニケーションを取ることができる機会を提供できた。

文化団体連合会

団体名	月日・場所	大会・催し物名	結果
競技麻雀 愛好会	12月18日 オンライン	MURSリーグ 2021	参加大学12校の麻雀大会に参加し、7位になり、他大学との交流を深めた。
	2月13日 オンライン	雀魂学生麻雀リーグ	[雀魂学生麻雀リーグ] 準優勝 辨野 巧 (社会メディア・2年)
	2月27日 スリアロβスタジオ	アモスグランド チャンピオンシップ 2021-2022 学生麻雀日本一決定戦 9位 辨野 巧 (社会メディア・2年)	[アモスグランド チャンピオンシップ2021-2022 学生麻雀日本一決定戦] 9位 辨野 巧 (社会メディア・2年)
エレクトーン サークル sky tone	11月6日、7日 等々力キャンパス	第13回東京都市大学 等々力祭	演奏会を配信し、好評を得た。
	12月1日 横浜キャンパス	第24日 チャリティー フェスティバル	演奏会を配信し、好評を得た。

体育会

団体名	月日・場所	大会・催し物名	結果
硬式野球部	11月13日 11月14日 11月20日 11月21日 亜細亜大学野球場	令和3年度 秋季東都リーグ戦 4部	対 東京工業大学 3-0 勝利 対 東京工業大学 2-11 敗戦 対 芝浦工業大学 4-3 勝利 対 芝浦工業大学 5-16 敗戦
ラグビー部	12月5日 江戸川臨海球技場	全国地区対抗ラグビー フットボール大会予選 関東1区1部1決勝	対 東京学芸大学 3-57 決勝敗退
卓球部	12月19日 12月20日 12月21日 和光市総合体育館	関東学生 卓球選手権大会	4回戦出場、 ベスト128 田代悠人 (機械システム・2年)
アメリカン フットボール部	10月2日 10月31日 11月14日 11月27日 12月12日 アミノバイタル フィールド 駒沢第二球場	関東学生 アメリカンフットボール 秋季リーグ	対 東京経済大学 17-14 勝利 対 高千穂大学 20-0 勝利 対 武蔵大学 22-28 敗戦 対 千葉大学 10-31 敗戦 対 新潟大学 21-10 勝利

学科研連合

団体名	月日・場所	大会・催し物名	結果
電気電子 通信工学科 学生会	3月16日 3月23日 オンライン	ネットワーク勉強会	学科学生などを対象に、ネットワークに関する勉強会を開催。参加者同士で知見を深めた。
児童学科 学生会	4月7日~4月8日 世田谷キャンパス	2022 フレッシュアーズキャンプ	新入生に向けて、大学の説明やキャンパス内の紹介、1年生や学部内の親交を深めるアクティビティを行った。

特別団体

団体名	月日・場所	大会・催し物名	結果
吹奏楽団	3月9日 ひまわりの 郷大ホール	第55回定期演奏会	観客約100人を動員し、 好評を得た。
放送会	11月6日、7日 世田谷キャンパス	第92回東京都市大学 世田谷祭	一部企画を除き、ほぼすべての配信と音響を担当し、世田谷祭の成功を支えた。
	12月1日 横浜キャンパス	第24日 チャリティー フェスティバル	エレクトーンサークルとアカペラサークルの生配信と音響を中心に、オンライン配信を行った。

新10号館(第1期工事)の竣工式を挙行了しました

2022年8月4日(木)、世田谷キャンパスにて新10号館(第1期工事)の竣工式を挙行了しました。当日はあいにくの雨でしたが、本学関係者と設計者、施工者ら約60名が参列し、厳かに執り行われました。

竣工した新10号館は、本学理工学系の教育研究における最重要施設と位置付けており、世田谷キャンパス内の6学科(機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、原子力安全工学科、都市工学科、知能情報工学科)の研究室・実験室を中心とする地上5階建て、延床面積1万㎡超の建物です。学問領域間の交流と相互刺激を促す「オープン化」をテーマに、課題解決型の「新研究ゾーン」に大きなスペースをあてるなど、時代に先駆けた教育研究施設になることをめざしています。

新10号館は、本学の創立100周年(2029年)に向けた中長期計画「アクションプラン2030」の一環で、世田谷キャンパス敷地面積の約3分の1をリニューアルする「東京都市大学キャンパス再整備事業」として進めてきました。また、第2期工事は、2023年5月～2024年8月を予定しています。

今後も本学は、良質な教育・研究環境の整備に積極的に取り組んでまいります。



TCU QUARTERLY / 都市大だより No.224

2022年10月28日発行(季刊)
 編集・発行: 東京都市大学 学長室(広報担当)
 連絡先: 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1
 TEL: 03-5707-0104 FAX: 03-5707-2222
 E-mail: toshidai-pr@tcu.ac.jp

夢キャン通信 Futakotamagawa YUME Campus

2022年6月1日で8年目を迎えた「二子玉川夢キャンパス」。「コロナ禍でも楽しもう!」の言葉を胸に、さまざまな活動を通して「みんな笑顔で会うこと・過ごすことの大切さ」と考えています。そんな夢キャンパスでの活動の一部をご紹介します。

2022年5月22日(日)、7月23日(土) 【生態系ボードゲーム「エコピラ」】開催

本学環境情報学研究所北村研究室の佐々木媛都さんが発案したオリジナルボードゲーム「エコピラ」を使って、生き物同士のつながりを学ぶイベントが開催され、2日合わせて18組の親子が参加しました。親子でコミュニケーションをとりながら学べるボードゲームと北村 亘准教授による生態系についての講義、午前の部では自然観察も行い、身近にある動植物について学べる時間となりました。



2022年6月5日(日)、25日(土) 【新・才能の芽を育てる体験学習「明かりはどこから」】「多面体探検隊」開催

世田谷区教育委員会が主催する小学生向け体験教室が開催され、2つの企画で70名が参加しました。理工学部原子力安全工学科 松浦治明准教授による「明かりはどこから」では、本学学生と一緒に電気を生み出す方法や種類を学びました。また、理工学部応用化学科 江場宏美教授による「集まれ!ためんたい◇たんけんたい(多面体探検隊)」では、3Dプリンタで作成したパーツを組み合わせながら図形の多様性について学びました。



2022年8月6日(土)～11日(木) 【夢のまちをつくらう!】開催

夢キャンコミュニケーションがfutakolocolにご協力をいただき、8/6(土)～8/11(木・祝)に「夢のまちをつくらう!」のイベントを開催しました。「リーダー参加枠」と自由に参加ができる「自由参加枠」の2つの枠を用意し、リーダー2名は、まちを計画するところから参加。真っ白な地図から川や緑、建物で色どり、学生と参加者13名が思い思いのまちをつくりました。



世田谷祭・等々力祭は合併し新たなステージへ

第93回 東京都市大学

世田谷祭



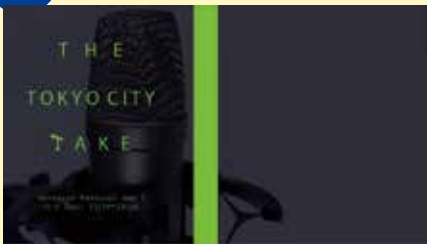
11/5^土・6^日

ハイブリッド形式で開催予定

※入場制限と来場予約を行います

企画紹介

中夜祭 THE TOKYO CITY TAKE



世田谷祭1日目の最後を飾るのは、カラオケ大会「TOKYO CITY TAKE」! 今年建設された新7号館のステージにて開催します。心動かす「魅せる」歌声を見届けに、是非お越しください!!

後夜祭 ビンゴ大会



今年参加型のビンゴ大会です! クイズコーナーもありますので、景品ゲットを目指して、是非ご参加ください!

eスポーツ企画
スプラトゥーン 3



他にも魅力的な企画が充実!最新情報は



ウェブサイト/各種SNSへ

第93回 世田谷祭ウェブサイト

「世田谷祭」の最新情報は右記QRコードからチェックしてください。



公式Twitter ▶



公式Instagram ▶



SETAGAYAFES.SFA

東京都市大学YC チャリティーフェス

対面開催 12/21^水

《開催時間》16:00~19:30 (予定)

《場所》横浜キャンパス4号館
(学生ホール・学生食堂)

新型コロナウイルス感染症の状況によって、開催形式を変更する場合があります。

企画内容

音楽企画

キャンパス
イルミネーション

チャリティー
募金

主催: 東京都市大学 学生団体連合会 横浜分室
後援: 東京都市大学 後援会・同学生部

第25回 東京都市大学
YCチャリティーフェス 特設ページ

最新情報は右記QRコードからチェックしてください。

